

とした。

主要業績

- 「実施調査者の役割をめぐって」『東洋文化』第45号，1968年
「象徴的二元論と構造分析」『理想』No.426，11月号，1968年
「千年王国論とテデイカリズムの伝統」『中央公論』1月号，1969年
「滅びゆく文化と現代世界」『展望』9月号，1969年
「1969年の学界展望——回顧と展望（アフリカ）——」『史学雑誌』1969年
「基本構造をめぐって」泉靖一編『構造主義の世界』所収，大光社，1969年
「千年王国論」第Ⅰ部，第Ⅱ部，『中央公論』2月号，3月号，1970年
「幻想と現実」『海』8月号，1970年
「儀礼空間とユートピア」『海』9月号，1970年
「日常世界を超えるもの」『ユートピアとは何か』所収，社会思想社，1971年
「民衆運動の理解について」『歴史学研究』No.378，vol.11，1971年
「反抗の形態としての秘密結社」『伝統と現代』9月号，1971年
“Some Remarks on the New Religion Movements in Contemporary Japan,”
East Asian Cultural Studies, No.1~4, vol. XI, 1972
「近代と未開社会」『東洋文化研究所紀要』第56冊，1972年

池端雪浦（1973年12月まで）

主要研究課題

* 東南アジアにおける日本占領期の研究

日本占領期を東南アジア現代史の中にどう位置づけるか，フィリピンの場合を中心に比較史的に検討する。とくに重視しているのは1920・30年代と日本占領期との連続した側面である。日本占領期を現代史の画期とする見方が現在有力であるが，再検討を要する問題が多くある。

* フィリピン近・現代史の再構成

これまで進めてきた19世紀の経済変化やフィリピン革命に関する研究を踏まえて、フィリピン近・現代史を通史してまとめる。

主要業績

“The Last Days of General Ardemio Ricarde y Vibora,” Mimeograph University of the Philippines, December 1973

江島恵教（1974年2月まで）

主要研究課題

5, 6世紀におけるインド中観思想は玄奘等によって中国に紹介されているが、その研究は必ずしも盛んには行なわれなかった。例えば清弁についていえば、その著作の一部が漢訳されたにもかかわらず、玄奘が中心的に紹介した護法との関連で、彼に対立する思想家として位置づけられているにすぎない。ここにどのような事情があったのか、特に論理学的方法に対する中国学者の態度を考慮しながら、明らかにしてゆきたい。

主要業績

「Kumārilaによる仏教批判の一断面」 『印度学仏教学研究』20巻2号，
1972年3月

「大乘仏教における時間論」 『講座 仏教思想』1巻，理想社，1974年3月

黒田和彦（1974年3月まで）

主要研究課題

* ハンムラビ時代の国家と社会

ウル第3王朝時代には中央集権体制のもとに、メソポタミアのほとんど全ての土地は国家によって管理されていた。しかし、イシン・ラルサの分立時代をへたバビロン第1王朝時代には、土地の私的所有が拡大し、王室領の土地面積をしのぐようになる。このような土地所有の変化はどのようにして生じ

たのであるかを、発掘され公刊された多数の粘土板史料によって解明しようとするのが課題である。

* カッシート時代の土地所有の性格

バビロン第1王朝滅亡後、バビロニアを支配したのはカッシート王朝である。中バビロニア時代には境界石 Kuduru がさかんに製作された。境界石は王が皇族や有力な臣下に土地を施与し、免税と賦役・軍役の免除を記載した史料である。この時代にはバビロニアの国土は少数の高官一族によって分割された。この土地保有形態は古バビロニア時代の私的土地所有とはきわめて異なっており、古・中バビロニア時代の土地所有（保有）形態の変化をさぐることによって両時代の文化の差異をつきとめたい。

主要業績

「イドリ・ミ王座像について——フルリ・ミニタンニ芸術に関する一考察——」 『東洋文化』54号，1974年3月

佐藤次高（1974年8月まで）

主要研究課題

* エジプトの農村社会とイクター制

軍人に土地や村落を授与するイクター制は、エジプトでは12世紀の半ばに始まり、これはエジプトの国家体制ばかりでなく、都市や農村社会にもさまざまな変革を及ぼすことになった。そこで研究の中心をイクター制の構造とその展開、さらにイクター制下のエジプト農村社会の実態を明らかにすることにおき、中世のエジプト社会を具体的に考察することを試みる。

主要業績

「封建制研究とイスラム」『歴史学研究』378号，1966年

「12-14世紀のエジプト農村社会と農民」 『東洋文化研究所紀要』59冊，1968年

「マクリーズィーと『エジプト社会救済の書』」 『東洋文化』54，1969年

“Irrigation in Rural Egypt from the 12th to the 14th Century,”
Orient, VIII, 1972

岡本サエ（1971年4月以降）

主要研究課題

* 清代禁書の著者達の思想

乾隆禁書の中核部分を占める明清士大夫の著作を分析し、士大夫間の思想的対立の多様な実態と、対立を貫く共通の致用精神とを、彼等の意識構造に遡って考察することによって、存在並びに認識に関して17世紀の中国思想にいかなる変化が現われたかを追求する。

* 西学輸入の思想的基盤

16世紀以後ヨーロッパ文化との接触に応じた士大夫が、西学支持と排斥を通じて中国思想界に提起した如くみえる諸問題が、実際には中国固有の論争点の一端をになっていた事実を、王夫之、黄宗羲ら儒学者の西学批判の分析により立証する。

主要業績

「中国人の最初のヨーロッパ観」 『講座 比較文学』6巻，東京大学出版会，1974年2月

“Un renouveau refusé” 『東洋文化研究所紀要』65冊，1975年2月

「弑臣論」 『東洋文化研究所紀要』68冊，1976年3月

原洋之介（1972年4月以降）

主要研究課題

* 東南アジア経済の比較研究

過去数年間、インドネシア経済に関して政策形成・貨幣政策・農業政策の諸点の経験科学的分析をおこなった。現在は、この研究の中で確立した視点・仮説・方法にもとづいて、他の東南アジア諸国の経験の分析を試みている。

特に、現地派遣中であるタイ国とインドネシアとの比較研究に重点をおいている。新しい課題として、東南アジアにおける都市化の経済分析をつけ加えている。

主要業績

「新しい経済史について：アジア経済研究との関連」 『アジア研究』, アジア政経学会, 1974年2月

「インドネシアのインフレーションと経済成長（1960年～69年）—— 経済発展の機構の実証分析（その1）——」 『東洋文化研究所紀要』62冊, 1974年2月

「村落構造の経済理論—— 共同行動の経済学的説明の方向について——」 『アジア研究』, アジア政経学界, 1974年7月

「インドネシアにおける政治的リーダーシップと経済政策—— 経済発展の機構の実証分析（その序）——」 『東洋文化研究所紀要』67冊, 1975年3月

「インドネシアの米穀経済と技術移転—— 技術定着と村落構造 ——」 齊藤一夫編『発展途上国への農業協力』アジア経済研究所, 1975年8月

「ジャワ米穀経済への高収量品種の移転・普及・定着—— 経済発展の機構の実証分析（その2）——」 『東洋文化研究所紀要』69冊, 1976年3月

「教育経済学の展開—— 経済的不平等化のメカニズムを中心にして——」 『アジア経済』アジア経済研究所, 1976年5月

後藤 晃（1973年4月以降）

主要研究課題

* 西アジア, アフリカの農業社会の経済構造

西アジア, アフリカにおける農業社会を対象に, 農業経済学, 人文地理学の方法により調査を行ない, 農業社会の国家体制への規定を抽出する。

主要業績

「西ナイジェリアにおける商品流通経済の進展——市場活動の展開と農業社会——」 『アフリカの農業と土地保育』アジア経済研究所，1976年
「イラン乾燥地農業と水——マルヴダント地方における灌漑農業の形態——」
『東洋文化研究所紀要』70冊，1976年

伊藤亜人（1973年5月以降）

主要研究課題

* 韓国農村の社会構造

村落調査に基づき，主として父系血縁集団と契集団を有力な構成原理として取り上げ，それぞれの構造原理とその相互連関の側面から社会構造を考察する。

* 韓国農村社会における宗教複合

租先祭祀の分析により，儒教的祖先複合と非儒教的基層的祖霊観の習合の様相を考察し，社会構造との関連を考察する。

* 日本農村社会における“non-groups”

個人間の interaction，及び network の側面から「村落」，「イエ」，「同族」等の“集団”を考察する。

主要業績

「世界の船——その伝統技術——」 大林太郎編『船』，社会思想社，1974年

「漁民集団」 講座 比較文化，巻6『日本人の社会』，研究社，1976年

小杉修二（1974年4月以降）

主要研究課題

* 中国革命と毛沢東主義

毛沢東主義に特有の「自力更生」的一国革命論，農民革命論と中国革命の実際との乖離を理論的，実証的に究明する。そして，毛沢東，毛沢東路線，

毛沢東の公式論文，実際の中国共産党の路線と中国革命の相互関連を考察する。さらに，この検討を通じて，今日の毛沢東主義の形成時期を探る。

* 中国における社会主義と毛沢東主義

毛沢東主義を中国社会主義の歴史の中で考える際にも，毛主義の本質は社会主義かそうでないのかという問いは避け難いように思われる。毛主義が社会主義でないとしたら，社会主義の一応の現われ＝「労働に応じた分配」等は，社会主義と毛主義とのどんなせめぎあいの中から生まれたのか？こうした諸点を毛主義の本質，毛主義者と「実務派」の相違性と同質性の考察，及び現代中国経済の蓄積構造，イデオロギー，政治等の検討から考えることに着手している。

主要業績

「五・三〇運動の一考察」 野沢豊編『中国国民革命史の研究』，青木書店，1974年5月

「毛沢東主義的農民観に対する批判——ア・エム・マルーヒン著『1925—1927年の革命における中国農民』」（書評）『歴史評論』，1975年11月

嶋田英誠（1975年4月以降）

主要研究課題

* 北宋山水画史研究

北宋時代の山水画が中国山水画史上到達し得た最高峰の一つであることは，異論のないところである。しかし現存遺品が稀少であり，その多くが模本であるため，個々の作品の評価，編年は，研究者の間で必ずしも意見の一致をみていない。そのような中で燕文貴派は，数世代にわたる制作活動を示す遺品を残しており，これらを基準として各作品の編年と，北宋山水画の様式展開全体について研究している。

白石 隆（1975年4月以降）

主要研究課題

* 日本軍政下におけるマラヤ華僑社会の政治的变化

従来行なってきたマラヤ華僑研究の一環として、イギリスの植民地支配と中華民族主義の展開の中で形成された頭家秩序の崩壊を跡づけることを試みる。具体的には、1930年代後半、抗日救国運動の展開の過程で形成された陳嘉庚派、胡文虎派、国民党、マラヤ共産党、無党派親英華僑の政治的勢力配置の軍政下における変化を、特に、日本軍政当局の指導下に組織された華僑協会、およびマラヤ共産党の指導下に組織された抗日人民義勇軍の勢力の消長を中心として検討する。現在、最終的な史料整理の段階である。

* インドネシアにおける地方主義と軍閥

本研究の目的は、1950年代後半に武装反乱として帰結するスマトラの地方主義を、日本軍政朝・革命期に形成された地方的な政治武装勢力と、ジャカルタを根拠とする中央集権的政治勢力の対抗関係を歴史的に整理することによって検討し、インドネシアにおける政治的統合の問題に接近しようとするところにある。作業は二つに分れ、日本軍政期・革命期における武装・半武装政治勢力の組織と勢力配置の検討、および国軍近代化の過程での地方軍閥と地方主義的諸勢力の結託の過程の検討からなる。現在、研究史の整理、史料収集の段階である。

* 軍の政治的役割に関する比較政治学的研究

本課題は、上記の地方主義と軍閥に関する研究に対応して、軍の政治的役割についての理論的整理を試みるものである。中心的问题是、いわゆる第三世界における軍の政治的介入、軍事政権樹立の政治的文脈を整理することであり、最終的には「近代化の推進力としての国軍」というシェーマの批判をを目的とする。現在、研究史の整理の段階である。

主要業績

「華民護衛署の設立と会党——19世紀シンガポール華僑社会の政治的变化——」 『アジア研究』22巻2号, 1975年

森山茂徳 (1976年4月以降)

主要研究課題

* 近・現代日韓関係史の諸問題研究

日韓関係史を何れの立場にも偏せず, かつ国際関係から民衆間の交流までを視野に入れて研究しようという試みである。当面, 日本の朝鮮植民地化過程, 日本の朝鮮植民地政策, 戦後日韓関係史のそれぞれの時期についての研究を同時並行的に行ない, 近・現代日韓関係史における諸問題を明かにしたい。

主要業績

「甲午改革における借款問題——井上馨の関与した第二次改革と朝鮮指導者層の対応を中心として——」 『東洋学報』56巻2・3・4号, 1976年
『上原勇作関係文書』(共編) 東京大学出版会, 1976年

持井康孝 (1976年4月以降)

主要研究課題

* 中国殷周時代の国家構造と王室の構造

殷・周両王朝の国家形態を, 総合的に研究する。その際, 王——「諸侯」間の秩序構造のみならず, 王室内部の族関係, および王——「諸侯」間の秩序構造と王室内部の構造との関係についても考察する。このような点を実証的に研究すべく, 目下, 甲骨・金文銘の群別作業を行なっている。

主要業績

N. バーナード「中国から初めて報告された¹⁴C年代」(訳) 『甲骨学』11号, 1976年6月

E 研 究 会

I 研究懇談会

昭和46年度

- | | | |
|--------|-----------------------------------|---------------|
| 9月23日 | 9世紀敦煌の家産分割関係文書をめぐって
イスラム研究と宗教学 | 池田 温
中村廣治郎 |
| 10月21日 | 元のグロテスク——顔輝周辺の問題—— | 戸田 禎佑 |
| 11月18日 | アフガニスタンの農村から——スライド影写—— | 大野 盛雄 |
| 12月23日 | 台湾の道教 | 窪 徳忠 |
| 3月 9日 | 南アジアにおけるムスリム聖者崇拜 | 荒 松雄 |

昭和47年度

- | | | |
|--------|--|-----------|
| 4月25日 | 中部ルソン農村の変容——カトリナン村の10年—— | 高橋 彰 |
| 5月25日 | 中国における演劇の発生——喜劇と悲劇—— | 田仲 一成 |
| 6月29日 | Some Methodological Problems in the Study
of Social Change in India | T.N.Maden |
| 9月21日 | 「ゆがみ」と「おくれ」の概念について——インド近
代史研究視角の—反省—— | 松井 透 |
| 11月 9日 | 清末における「共和制」について | 佐伯 有一 |
| 12月19日 | 中国における小説の意味 | 尾上 兼英 |
| 1月23日 | 低開発諸地域の経済と発展上の課題 | 山田 三郎 |
| 2月27日 | 食料生産経済の起源について——最近の研究動向—— | 松谷 敏雄 |

昭和48年度

- | | | |
|-------|-------------------|-------|
| 5月10日 | ラームモーハン・ローイの司法制度論 | 山崎 利男 |
| 6月21日 | 現代東南アジア国際関係論 | 関 寛治 |

- 9月21日 法隆寺献納御物「帝王獅子文錦」にみられる「山」と「吉」の解釈について 深井 晋司
- 11月 8日 先秦青銅器研究の新動向 松丸 道雄
- 12月13日 鎌倉旧仏教におよぼした新羅華蔽の影響 鎌田 茂雄
- 2月 7日 「十六羅漢図と十王図」— 全国調査の報告 — 鈴木 敬

昭和49年度

- 5月16日 「研究会の方針について」 映画「イラン農村」 大野 盛雄
- 6月13日 「アジアの地域区分の方法と問題点 その一」— アジア農業の地域区分 — 山田 三郎
- 6月27日 「アジアの地域区分の方法と問題点 その二」— 地域の認識と経済学 — 原 洋之介
- 7月18日 「アジアの地域区分の方法と問題点 その三」— 地理学における農業地域区分論 — 大岩川和正
- 9月24日 イスラムと政治 — 思想史的考察 — 中村廣治郎
- 11月 7日 朝鮮三国における宗教と社会 — 朝鮮における仏教の受容をめぐる — 鎌田 茂雄
- 11月21日 テラワダ仏教と社会 — タイの報告 — 青木 保
- 12月19日 ヒンドゥー法とはなにか — インドの法と宗教と社会 — 山崎 利男
- 1月16日 第三世界における平和の条件(一) — その理論的考察 — { 関 寛治
高柳 先男
- 2月20日 第三世界における平和の条件(二) — 経済自立の思想 — 西川 潤
- 3月20日 1.インド核実験の論理と現実 森 利一
2.アジアの民衆運動 高島 通敏

昭和50年度

- 4月17日 「昨年度の研究懇談会をふりかえって」 — 今年への展望 —
- 6月19日 日本における中国絵画様式の変容について 鈴木 敬

9月25日	「古代史研究の一角から」	小倉 芳彦
10月28日	現代中国経済研究雑観	小島 麗逸
11月 4日	植民史研究の現在的意味——台湾を中心として——	戴 国輝
11月20日	日本における中国近代文学研究	丸山 昇
11月27日	中世イスラームにおけるスーフィーのハーシカー	S.A. リズヴィー
12月 4日	中国思想研究の一側面——魏晋南北朝時代——	蜂屋 邦夫
12月11日	日本における中国通俗文学研究	田仲 一成

昭和51年度

5月20日	昭和51年度研究懇談会の運営について	
6月24日	インド農産物価格の研究——19・20世紀ウタル・プラデシについて——	松井 透
7月15日	イラン農村の社会変化——ケイラーバードの事例——	大野 盛雄

Ⅱ 研究談話会

昭和49年度

9月12日	メソポタミアの古代王政における封建的性格	黒田 和彦
10月 3日	「狂人日記から故事新編へ」——魯迅における進化論とマルクス主義——	伊藤 虎丸
10月17日	中国考古学の旅—スライド使用—	関野 雄
12月 5日	フィリピン革命におけるプエブロの役割について	池端 雪浦
1月30日	イランの農村——10年間の変化——	大野 盛雄

昭和50年度

5月15日	中国の旅から	中根 千枝
6月 5日	イランの町と村の調査をめぐって	田中 紀彦

- | | | |
|--------|-------------------|-------|
| 7月 3日 | 韓国の農村調査より | 伊藤 亜人 |
| 10月23日 | 韓国の「官庁政治学者」集団について | 関 寛治 |

昭和51年度

- | | | |
|-------|---------|------|
| 6月10日 | 中国から帰って | 関 寛治 |
|-------|---------|------|

Ⅲ 班研究会

昭和46年度

- | | | |
|--------|----------------|-----------------------|
| 4月13日 | 政治文化の比較計量分析 | 三宅 一郎
(東アジア政治・法律班) |
| 4月27日 | 万暦の農村 | 佐伯 有一
(明代史班) |
| 5月18日 | インドネシア農業発展について | 川野 重任
(汎アジア経済班) |
| 6月18日 | 清談をめぐる問題点 | 福井 文雅
(中国宗教班) |
| 6月29日 | 思想史における万暦時代 | 溝口 雄三
(明代史班) |
| 6月30日 | 東南アジア農業発展上の問題 | 川野 重任
(汎アジア経済班) |
| 7月 1日 | 念仏儀礼について | 竹中 信常
(中国宗教班) |
| 7月 2日 | 言語と民族性 | 芳賀 綏
(近代日本の社会と思想班) |
| 11月 4日 | 憨山徳清の思想 | 鎌田 茂雄
(明代史班) |
| 12月 2日 | 万暦本「清明上河図」 | 古原 宏伸
(明代史班) |
| 12月 9日 | 三論教学の成立に関する諸問題 | 平井 浚栄
(中国宗教班) |
| 1月27日 | 冬口器の西洋観とその時代 | 小林 サエ
(明代史班) |

3月 2日 明代の道教 窪 徳忠
(明代史班)

3月16日 経済の停滞を破るもの 川野 重任
(汎アジア経済班)

昭和47年度

4月22日 沖縄調査シンポジウム 藤井 正雄
(中国宗教班)

5月 9日 インド外交とバングラデシュ問題 森 利一
(東アジア政治・法律班)

5月15日 農村調査の姿勢 大野 盛雄
(アジアの農村班)

5月20日 沖縄調査報告 安斎 伸
(中国宗教班)

5月20日 「東洋文化」第52号合評 (中国近現代の思想と文学班)

6月13日 北インド農村の歴史的变化 松井 透
(アジアの農村班)

6月28日 雑誌「北斗」について 三宝 政美
(中国近現代の思想と文学班)

7月15日 現代中国における映画製作その他 徳永 淳子
(中国近現代の思想と文学班)

11月 1日 チャオプラヤ川流域農村の生活 友杉 孝
(アジアの農村班)

1月24日 東ベンガルにおける農業について 菱口 善美
(アジアの農村班)

昭和48年度

5月24日 中国禅宗史の諸問題 田中 良昭
(東アジア哲学・宗教班)

6月 4日 アジア農村研究の基本問題——48年度の研究会の基本
方針の検討—— (アジアの農村班)

6月25日 アジア各地域における「農民」の概念について(1) (アジアの農村班)

6月26日 明代の大地所有と奴婢 小山 正明
(明代史班)

- 7月 9日 アジアの各地域に於ける「農民」の概念について(2)
(アジアの農村班)
- 10月 8日 アジアの農村研究における農業経済学的視点と方法(1)
(アジアの農村班)
- 10月 9日 嘉靖文人画様式の成立 鈴木 敬
(明代史班)
- 11月 1日 1930年代中国文学研究の問題点 丸山 昇
(東アジア文学班)
- 11月 6日 アジアの農村研究における農業経済学的視点と方法(2)
(アジアの農村班)
- 11月27日 明代仏教における楞嚴經研究の流行 鎌田 茂雄
(明代史班)
- 12月 3日 日本農村地域区分の問題 江波戸 昭
(アジアの農村班)
- 1月14日 アジアの農村地域区分の問題 山田 三郎
(アジアの農村班)
- 1月26日 「太平天国」運動の問題点と史料の整理 小島 晋治
齋藤 道彦
(東アジア歴史班)
- 1月29日 天台教学の問題点 池田 魯参
(東アジア哲学・宗教班)
- 3月 5日 明代江南地方劇の階層分解 田仲 一成
(明代史班)
- 3月 5日 張横渠思想の一考察 大島 晃
(東アジア哲学・宗教班)
- 3月12日 ヨーロッパにおけるインド論理学の研究
—— 現状を中心として —— 泰本 融
(東アジア哲学・宗教班)
- 3月25日 1 アジア農村研究の問題と課題 古島 敏雄
2 イラン・ボレ・ノウむら調査報告
(アジアの農村班)
- 昭和49年度
- 4月22日 今年度「アジアの農村」研究会の課題と方向 (アジアの農村班)
- 4月25日 1930年代中国文学界を語る 鹿地亘・芦田肇
(東アジア文学班)
- 5月15日 アジアの農村と小農論, 古島報告をめぐって (アジアの農村班)

- 6月10日 今後半年間の研究会のもち方, その他, 研究報告 (アジアの農村班)
- 6月11日 トルファン梵文写本について 江島 恵教
(東アジア哲学・宗教班)
- 6月15日 石鼓文 (第一回) 持井 康孝
(東北アジア班)
- 9月21日 石鼓文 (第二回) 赤塚 忠
(東北アジア班)
- 9月27日 第三種人論争と蘇汶 前田 利昭
(東アジア文学班)
- 9月28日 インド婚姻訴訟事件について 山崎 利男
(南アジア政治・経済班)
- 9月30日 唐律疏議と日本律の会読 (以降毎週) 青木 和夫
(東アジア歴史班)
- 10月23日 現代中国の社会構造—グローバル・パースペクティブ— ヨハン・ガルトング
(東アジア政治・法律班)
- 10月29日 世界秩序の形成における指標化プロジェクト ヨハン・ガルトング
(東アジア政治・法律班)
- 11月29日 タイ国の農業と経済発展 — 米を中心として — 辻井 博
(汎アジア経済班)
- 11月30日 詛楚文 松丸 道雄
(東北アジア班)
- 11月30日 インド史における多民族統一 中村 平治
(南アジア政治・経済班)
- 12月 3日 『莊子』文献研究考 沢田多喜男
(東アジア哲学・宗教班)
- 12月14日 秦始皇刻石 松丸 道雄
(東北アジア班)
- 1月24日 アラブ・イスラエル紛争の将来と日米欧への影響 レイモンド・タンター
(東アジア政治・法律班)
- 2月 1日 秦権量銘 持井 康孝
(東北アジア班)
- 3月 1日 1857年の反乱と農村社会 長崎 暢子
(南アジア政治・経済班)

昭和50年度

- 4月12日 チョーラ朝タルミ語刻文に現われる人名の統計的研究 辛島 昇
(南アジア政治・経済班)
- 5月より毎週月曜日 清代契約文書の構読 (東アジア歴史班)
- 5月12日 今年度「アジアの農村」研究会の課題について (アジアの農村班)
- 5月20日 今年度の班研究会について (東南アジア経済・社会班)
荒牧典俊「魏晋思想と初期中国仏教思想一序」 竹村 牧男
(東アジア哲学・宗教班)
- 6月 3日 東南アジアの農業発展 原 洋之介
(東南アジア経済・社会班)
- 6月10日 乾燥地農業における水の意味と灌漑水利秩序 後藤 晃
(アジアの農村班)
- 6月17日 マーク・エルヴィン「中国の過去のパターン」について 衛藤 藩吉
(東アジア政治・法律班)
- 6月26日 孟子における語義と思惟 劉 文献
(東アジア哲学・宗教班)
- 6月28日 ウルドゥー文学について 鈴木 斌
(南アジア政治・経済班)
- 7月 8日 インドネシアの政治発展と華僑 白石 隆
(東南アジア経済・社会班)
- 9月30日 国際構造変動と中国の国家行動——1958年と1966年 関 寛治
に関する一試論—— (東アジア政治・法律班)
- 10月14日 イラン・マルヴダシュト地方の地域交通の展開と商 田中 紀彦
品流通 (アジアの農村班)
- 11月13日 宋代禅宗史研究の諸問題 石井 修道
(東アジア哲学・宗教班)
- 11月18日 マレーシアの稲作農村調査から 高橋 彰
(東南アジア経済・社会班)
- 12月 2日 1926年の大沽事件について 藤井 昇三
(東アジア政治・法律班)
ジャワのデサについて 加納 啓良
(東南アジア経済・社会班)
- 12月 9日 慧遠の輪廻報応思想について 小林 麻美
(東アジア哲学・宗教班)

- 12月13日 パキスタン・アフガニスタン・イランの調査より帰って 月輪 時房
(南アジア政治・経済班)
- 12月15日 イスラエルの農村とシオニズム 大岩川和正
(アジアの農村班)
- 1月より毎週月曜日 唐律疏議と養老律の比較会読 (東アジア歴史班)
- 2月21日 新四国借款国をめぐる日米関係 平野健一郎
(東アジア政治・法律班)

F 東洋文化研究所紀要

第55冊（昭和46年3月）

インドの一八五七年の反乱におけるシャーハーバート政権について 長崎 暢子

明来を生きた李卓吾 溝口 雄三

台湾、海岸アミ族の社会結合——P村における擬制親族の役割——末成 道男
築島謙三教授 略歴・著作目録

第56冊（昭和47年3月）

デーラマン地方出土のコア・グラス 深井 晋司

「近代」と未開社会 その一——未開社会における「土着主義」青木 保
的対応の諸相——

第57冊（昭和47年3月）

中国絵画における形態の伝承——摸写の特殊性について—— 戸田 禎佑

プロレタリア教育革命参観記 菅沼 正久

シアヌーク王制リーダーシップと政策決定 浦野 起央

ガザリーの神秘修行論（承前）—— Dhikr と Du'a を中心として—— 中村廣治郎

第58冊（昭和47年3月）

老子八十一化図説について——その資料問題を中心として—— 窪 徳忠

『重陽真人金闕玉鎖訣』について 蜂屋 邦夫

万曆四年刊「禅源諸詮集都序」について 鎌田 茂雄

ピゼとチネ——泥壁考序説—— 松谷 敏雄

主宰神（Isvara）の存在証明と文法学説 泰本 融

——『Nyāyakusumāñjali 第五篇（6 - 14 詩頌）』を中心として——

川野重任教授 略歴・著作目録

第59冊（昭和48年2月）

- 十二—十四世紀のエジプト農村社会と農民——ファッションーフー
ンの農業生産と農業生活の様式—— 佐藤 次高
- 東ベンガルの村落と農業——農村調査における一視点—— 菱口 善美
ニザームッディーン・オーリヤ廟での宗教集会に就て 鈴木 斌
- 台湾パイソワ族の〈家族〉——M村における長子への贈与慣行 末成 道男
Pasadan を中心として——

第60冊（昭和48年3月）

- 中国古代の租佃契（上） 池田 温
- 十五・六世紀を中心とする江南地方劇の変質について（一） 田仲 一成
- 辛亥後の章炳麟 高田 淳

第61冊（昭和48年3月）

- 瀟湘卧遊図巻について（上） 鈴木 敬
- 范縝『神滅論』の思想について 蜂屋 邦夫
- プロレタリア教育革命参観記（下） 菅沼 正久
- 彙報

第62冊（昭和49年3月）

- ササン王朝ペルシヤ銀製馬像に見られる馬印について 深井 晋司
- 魏晋の占田・課田と給客制の意義 堀 敏一
- 明代の大土地所有と奴僕 小山 正明
- タマン・シスワの研究——初期の活動に関する一考察—— 土屋 健治
- インドネシアのインフレーションと経済成長一九六〇～六九
年——経済発展の機構と実証分析——（その一） 原 洋之介

第63冊（昭和49年3月）

- 十五・六世紀を中心とする江南地方劇の変質について（二） 田仲 一成
- 落日と夕陽——唐詩における夕日の詩語初探—— 山之内正彦
- 馬建忠の鉄道論 坂野 正高

アジア農業の生産性と生産構造 マクロ計量的国際比較分析 山田 三郎
第64冊 (昭和49年3月)

スーフィー聖廟の発展と建造物の造営——デリーにおけるシェ
イフ＝ナスィールッディーン廟の例—— 荒 松雄
ラームモーハン＝ローイの司法制度論(一) 山崎 利男
一八五七年の反乱におけるデリー政権の構造(上) 長崎 暢子
十九・二十世紀北インドの農産物価格について——統計史料の
考察とメーラト県の具体的検討—— 松井 透
窪 徳忠教授 略歴・著作目録

第65冊 (昭和50年2月)

中国古代の租佃契(中) 池田 温
十五・六世紀を中心とする江南地方劇の変質について(三) 田仲 一成
吉蔵の経典観と引用論拠 平井 俊栄
大寨生産大隊の三年(上) 菅沼 正久
UN RENOUVEAU REFUSÉ sur les conditions de Saé K. OKAMOTO
l'ouverture aux idées occidentales dans la
chine du XVIIème siècle(La Troisième Partie)

第66冊 (昭和50年3月)

ラームモーハン＝ローイの司法制度論(二) 山崎 利男
ヒンディー語圏におけるサッティヤナーラーヤン・ヴラト・カ
ターについて 田中 敏雄
ターヴィーズに就て——ウルドゥー文学と民間信仰—— 鈴木 斌
サルタナット期デリーのイスラーム建造物にみられる比例につ
いて 月輪 時房

第67冊 (昭和51年3月)

ガザリー研究とその問題点(一)——中世より十九世紀末まで 中村廣治郎
心として——

- 新羅骨品制の再検討 武田 幸男
 インドネシアにおける政治的リーダーシップと経済政策 原 洋之介
 — 経済発展の機構の実証分析（その序）—
 ニャーヤ学派における論証式の問題 — Uddyotakara の主張を 泰本 融
 中心として —

第68冊（昭和51年3月）

- 孟郊詩論（上）— 連作詩を中心に — 山之内正彦
 弑臣論 岡本 サエ
 『故事新編』の哲学 — 序説及び「補天」論 — 伊藤 虎丸

第69冊（昭和51年3月）

- デリーに現存するスーフィー聖者の偽墓 荒 松雄
 一八五七年の反乱におけるデリー政権の構造（中）— 反乱と農 長崎 暢子
 村社会 —
 ガザリーの研究とその問題点（二）— 回心・引退の問題を 中村廣治郎
 中心として —
 ジャワ米穀経済への高収量品種の移転・普及・定着 — 経済 原 洋之介
 発展の機構の実証分析（その2）—
 ミーンヌッディーン・チシュティン廟に就て — 沿革と現状 — 鈴木 斌

第70冊（昭和51年3月）

- イランにおけるむらと町を結ぶ交通の農村的形態 デヘ=ヘ 田中 紀彦
 イルアバードとマルヴダシト町（ファールス州地方）を結ぶ
 農村乗合自動車の事例的研究
 イラン乾燥地農業と水 後藤 晃
 — 農村にみる就業構造の変貌／岡谷市駒沢1945～1975 — 江波戸 昭

G 東 洋 文 化

第52号（昭和47年3月） 1930年代中国文学研究

序論

1930年代の上海文壇 小野 忍

文芸理論と論争

革命文学論争と太陽社 佐治 俊彦

銭杏邨における「新写実主義」 芦田 肇

左連前期における文芸大衆化の問題 丸尾 常喜

「国防文学論戦」について(上) 丸山 昇

作家研究

茅盾の文学 木村 静江

瞿秋白と左連 前田 利昭

蔣光赤論序論 城谷 武男

丁玲文学における「革命」の誕生 北岡 正子

第53号（昭和48年3月） 特集“韓国農村調査”

草墳 李 杻鉉

韓国家族の構造 李 光奎

慶尚北道百忍・中浦兩部落調査予報——とくに家族・親族について—— 李 光奎

濟州島巫俗の神々——部落守護神の形成を中心として—— 玄 容駿

濟州島の家族——〇村の事例から—— 佐藤 信行

韓国農村社会の一面 伊藤 亜人

——全羅南道珍島にて——

洛東江上流地方の社会と文化——安東ダム地区の農村社会 金 宅圭

素描——

第54号(昭和49年3月) 西アジア研究

西アジアの特異な石器「サイド・ブロー・ブレイド・フレイク」 松谷 敏雄
について

イドリ・ミ王座像について 黒田 和彦
—フルリ・ミタンニ芸術に関する一考察—

盲目の詩人マアッリー 小高 正直
—バグダード留学・宥しの書—

ユーランの被造性をめぐる論争について 中村廣治郎
マクリーズィーと『エジプト社会救济書』 佐藤 次高
遊牧民集落の成立とその態容 片倉もとこ

—サウディ・アラビア, ウサイダの事例—
イブン・アル＝カルビイー『偶像の書』(訳) 池田 修

第55号(昭和50年3月)

論説

五代における巫 中村治兵衛

宋代地主制と公権力 柳田 節子

劉少奇批判から林彪批判への発展 菅沼 正久

南トルクメニアの初期農耕文化 堀 暁

仏陀像を刻印したカニシュカー一世の貨幣について 田辺 勝美
—新資料の紹介を含めて—

海西国雑考 相馬 隆
—所謂犁軒の位置に関する一考察—

研究ノート

中国近代史研究方法論序説 西川喜久子
—田中正俊著『中国近代経済史研究序説』批判—

第56号(昭和51年3月) 1930年代中国文学研究Ⅱ

論説

周揚らによる「歴史の歪曲」について 国防文学論戦と文化大革命・Ⅲ ——	丸山 昇
「第三種人」論争における馮雪峯——および「中間派」文学者をめぐって——	前田 利昭
「魯迅雜感選集序言」の理論的前提——左連前期における瞿秋白文芸理論の位置 ——	丸尾 常喜
胡秋原覚え書き——胡秋原における 1930 年代文芸 ——	佐治 俊彦
「北斗」という雑誌——左連初期の文学状況 ——	三宝 政美
殷達夫覚え書き	北岡 正子

H 本学への教育参加

昭和48年度

1 大学院

(1) 人文科学研究科

(氏名)	(専門課程)	(課目)
尾上 教授	中国語中国文学	宋元語本の研究
荒 教授	東洋史学	インド中世史研究
佐伯 教授	東洋史学	中国近代史の諸問題
山崎 教授	東洋史学	インド法制史研究
窪 教授	宗教学宗教史学	明代道教史(続講)
田仲 助教授	中国語中国文学	清代戯曲研究
松丸 助教授	東洋史学	殷周青銅器銘文研究
鎌田 助教授	印度哲学	中国仏教文献研究
中村 助教授	宗教学宗教史学	イスラム思想研究
中村 助教授	宗教学宗教史学	アラビア語イスラム文献講読

(2) 法学政治学研究

関 教授	政治学	アジア政治外交史演習
------	-----	------------

(3) 社会学研究科

中根 教授	文化人類学	社会構造の分析
松井 助教授	国際関係論	南アジア近代史演習
松谷 講師	文化人類学	メソポタミアにおける農耕・牧畜の起源

(4) 理学系研究科

大野教授 地理学 経済地理学特論

(5) 農学系研究科

山田助教授 農業経済学 国際農業論特論

2 学部

(1) 文学部

佐伯教授 東洋史学 中国近代史研究
中根教授 文化人類学 社会学特殊講義
戸田助教授 美術史学 宋元絵画史
中村助教授 宗教学宗教史学 イスラム思想史概説

(2) 教養学部

中根教授 教養学科 社会の構造
松井助教授 教養学科 インド近代史
松谷講師 教養学科 考古学方法論

(3) 理学部

大野教授 地理学 地理学特別講義
松谷講師 文化人類学 人類の文化に関する小理論

(4) 農学部

山田助教授 農業経済学 特別講義

(5) 法学部

関 教 授 政 治 学 国際政治

3 全学一般教育ゼミナール

深 井 教 授	アジアの美術（西アジア） 〔 1. 3 〕
鎌 田 助 教 授	中国の宗教—禅思想の形成と 展開 〔 1. 3 〕
鈴 木 教 授	アジアの美術（中国）〔 2. 4 〕
蜂 屋 助 手	中国古代思想史における儒教 と仏教〔 2. 4 〕

昭和49年度

1 大 学 院

(1) 人文科学研究科

(氏 名)	(専門課程)	(課 目)
尾 上 教 授	中国語中国史学	宋元話本
荒 教 授	東 洋 史 学	インド中世史研究
佐 伯 教 授	東 洋 史 学	中国近代史の諸問題
山 崎 教 授	東 洋 史 学	インド法制史の研究
田 仲 助 教 授	中国語中国文学	清代戯曲研究
松 丸 助 教 授	東 洋 史 学	殷周青銅器銘文研究
中 村 助 教 授	宗 教 学 宗 教 史 学	イスラム思想研究

(2) 法学政治学研究科

関 教 授 政 治 学	アジア政治外交史演習
-------------	------------

(3) 社会学研究

中根教授	文化人類学	社会構造の分析
松井教授	国際関係論	南アジア近代史

(4) 理科系研究科

大野教授	地理学	経済地理学
------	-----	-------

(5) 農業系研究科

山田助教授	農業経済学	国際農業論
-------	-------	-------

2 学 部

(1) 文学部

佐伯教授	東洋史学	中国近代史研究(資料講読)
中根教授	社会学	文化人類学
中村助教授	宗教学宗教学史学	イスラム思想史概説

(2) 教育学部

中根教授	教育学科	技術発達史
------	------	-------

(3) 理学部

松谷助教授	文化人類学	人類の文化に関する小理論
-------	-------	--------------

(4) 農学部

山田助教授	農業経済学	特別講義
-------	-------	------

3 全学一般教育ゼミナール

尾上 教授	中国俗文学産生演変〔 2. 4 〕
山田 助教授	アジア諸国の経済発展（1） 〔 2. 4 〕
山田 助教授	アジア諸国の経済発展（2） 〔 1. 3 〕
田仲 助教授	中国俗文学産生演変〔 1. 3 〕

昭和50年度

1 大学院

（1）人文科学研究科

（氏名）	（専門課程）	（課目）
尾上 教授	中国語中国文学	宋元話本
荒 教授	東洋史学	インド中世史研究
佐伯 教授	東洋史学	中国近代史の諸問題
山崎 教授	東洋史学	インド法制史
鎌田 教授	印度哲学	中国仏教文献講読
深井 教授	美術史学	西アジア美術史演習——ササン 王朝時代を中心に——
田仲 助教授	中国語中国文学	西廂記
池田 助教授	東洋史学	中国文書史料研究
松丸 助教授	東洋史学	殷周青銅器文研究
松丸 助教授	中国哲学	殷周青銅器文研究
蜂屋 助教授	中国哲学	弘明集研究
戸田 助教授	美術史学	元代道釈画研究

中 村 助 教 授 宗 教 学 宗 教 史 学 イスラム思想史概説

(2) 法学政治研究科

関 教 授 政 治 学 第三世界の国際関係

(3) 社会学研究科

松 井 教 授 国 際 関 係 論 南アジア近代史演習

中 根 教 授 文 化 人 類 学 社会構造の分析

松 谷 助 教 授 文 化 人 類 学 西アジアの先史学

(4) 農学系研究科

山 田 助 教 授 農 業 経 済 学 国際農業論特論

2 学 部

(1) 文学部

鈴 木 教 授 美 術 史 学 中国絵画概説

中 根 教 授 社 会 学 文化人類学

中 村 助 教 授 宗 教 学 宗 教 史 学 イスラム思想史概説

(2) 教養学部

中 根 教 授 教 養 学 科 社会の構造

山 田 助 教 授 教 養 学 科 経済発展論

田 中 助 教 授 教 養 学 科 産業経済地理

松 谷 助 教 授 教 養 学 科 考古学方法論

(3) 農学部

山田 助教授 農業経済学 特別講義

3 全学一般教育ゼミナール

関 教授

平和学入門〔1. 3〕

松丸 助教授

西周時代の社会と文化〔2. 4〕

昭和51年度

1 大学院

(1) 人文科学研究科

(氏名)

(専門課程)

(課目)

尾上 教授

中国語中国文学

宋元話本

荒 教授

東洋史学

インド中世史研究

佐伯 教授

東洋史学

中国近代史の諸問題

鎌田 教授

印度哲学

中国仏教文献講読

池田 教授

東洋史学

中国文書史料研究

田仲 助教授

中国語中国文学

西廂記

松丸 助教授

東洋史学

殷周青銅器銘文研究

松丸 助教授

中国哲学

殷周青銅器銘文研究

蜂屋 助教授

中国哲学

弘明集研究

中村 助教授

宗教学宗教史学

アラビア語イスラム文献講読

戸田 助教授

美術史学

中国絵画史の諸問題

(2) 法学政治学研究科

関 教授

政治学

第三世界の国際関係

(3) 社会学研究科

松井教授	国際関係論	南アジア近代史演習
中根教授	文化人類学	社会構造の分析

(4) 理学系研究科

大野教授	地理学	地理学特別研究
------	-----	---------

(5) 農学系研究

山田教授	農業経済学	国際農業論持論
------	-------	---------

2 学 部

(1) 文学部

鈴木教授	美術史学	中国絵画概説
中根教授	文化人類学	社会学特殊講義
中村助教授	宗教学宗教史学	イスラーム思想史概説
中村助教授	宗教学宗教史学	イスラームの社会と文化ーイスラーム共同体論

(2) 教養学部

中根教授	教養学部	社会の構造
蜂屋助教授	教養学部	中国語
伊藤助手	教養学部	韓国の村落社会

(3) 経済学部

田中助教授	経済学	経済地理
-------	-----	------

(4) 農学部

3 全学一般教育ゼミナール

中 村 助 教 授

イスラムと社会変動〔 1. 3 〕

田 中 助 教 授

アジアの農業と農村〔 1. 3 〕

Ⅰ 学 術 交 流

1 外国出張

(氏名)	(渡航先国・期間)	(目 的)
荒 松 雄	インド (48. 7. 11 ~ 48. 9. 10)	インド人の宗教生活に関する 実態調査
山崎利男	インド (48. 7. 11 ~ 48. 9. 10)	インド人の宗教生活に関する 実態調査
関 寛 治	アメリカ (48. 7. 23 ~ 48. 8. 10)	ハワイ大学において開催さ れる太平洋地域における平和会議
松井 透	フランス, ドイツ連邦共和国 (48. 7. 13 ~ 48. 7. 29)	パリ において開催される第29回国際東洋学会議
伊藤亜人	大韓民国 (48. 7. 20 ~ 48. 10. 15)	韓国農村における文化人類 学の調査
中根千枝	大韓民国 (48. 8. 2 ~ 48. 8. 6)	安東地区における安東ダム水 没予定地区村落の日韓合同調査打合せ
中根千枝	アメリカ (48. 8. 19 ~ 49. 5. 31)	近代日本の産業とその影響 に関する会議, 第9回国際人類学, 民族学会議出席ならびに 社会構造に関する研究
鎌田茂雄	大韓民国 (48. 10. 26 ~ 48. 11. 19)	韓国仏教の研究調査
鈴木 敬	台湾・香港 (48. 11. 18 ~ 48. 12. 7)	中国絵画の調査
戸田禎佑	台湾・香港 (48. 11. 18 ~ 48. 12. 7)	中国絵画の調査
山田三郎	インドネシア・マレーシア・タイ (49. 1. 6 ~ 49. 1. 30)	東南アジア地域における食糧需給の安定化のための国際協力 に関する現地調査
伊藤亜人	大韓民国 (49. 1. 12 ~ 49. 2. 25)	韓国農村における文化人

類学の調査

- 荒 松雄 インド・イラン・イタリア・連合王国・フランス・ドイツ・アメリカ
(49. 2. 16 ~ 49. 4. 19) インド, イスラム史における宗教と政治の研究
- 佐藤次高 トルコ・連合王国・エジプト・レバノン・イラン・イラク
(49. 2. 20 ~ 49. 8. 19) イスラム史の研究
- 鎌田茂雄 大韓民国 (49. 4. 30 ~ 49. 5. 14) 韓国仏教の研究調査
- 大野盛雄 アフガニスタン・イラン・トルコ・インド・香港 (49. 6. 19 ~ 49. 12. 30) 西アジア農村の人文地理学的調査
- 田中紀彦 アフガニスタン・イラン・トルコ・インド・香港 (49. 6. 19 ~ 49. 12. 30) 西アジア農村の人文地理学的調査
- 後藤 晃 アフガニスタン・イラン・トルコ・インド・香港 (49. 6. 19 ~ 49. 12. 30) 西アジア農村の人文地理学的調査
- 鎌田茂雄 大韓民国・香港 (49. 7. 7 ~ 49. 8. 5) 道教儀礼の研究
- 中根千枝 オーストリア・アメリカ・メキシコ (49. 8. 20 ~ 49. 9. 20)
日常における儀礼の再考, シンポジウム, 比較文化的視点における社会言語学研究会議, 比較的地見地からみた日本の経験
会議出席
- 伊藤亜人 大韓民国 (49. 9. 1 ~ 49. 12. 31) 韓国農村における文化人類学の野外調査
- 深井晋司 イラク・イラン・レバノン・トルコ・シリア・香港 (49. 9. 1 ~ 49. 9. 30) 発掘遺物の返却と関連遺跡, 遺物の調査
- 中根千枝 グアテマラ (49. 11. 10 ~ 49. 11. 19) パナハチエルで行なわれる「ソール・タックス教授の業績をたたえる会議」に出席
- 鎌田茂雄 台湾・香港 (49. 12. 9 ~ 50. 1. 7) 道教儀礼の研究
- 大野盛雄 イラン (50. 2. 20 ~ 51. 2. 19) ペルシャの農村構造の研究

- 中根千枝 ネパール・オーストラリア (50. 2. 21 ~ 50. 3. 22) ネパール国王戴冠式出席および人類学研究
- 鈴木 敬 台湾 (50. 3. 25 ~ 50. 4. 15) 台北市故宮博物院所蔵の中国画の研究
- 戸田禎佑 台湾 (50. 3. 25 ~ 50. 4. 15) 台北市故宮博物院所蔵の中国画の研究
- 関 寛治 大韓民国 (50. 4. 1 ~ 50. 4. 7) 日本外交についてのセミナーに参加および韓国の学者と平和形勢についての意見交換のため
- 鎌田茂雄 大韓民国 (50. 4. 18 ~ 50. 4. 24) 韓国仏教の研究
- 原洋之介 タイ (50. 7. 20 ~ 51. 7. 21) ESCAP (アジア太平洋経済社会委員会) においてアジア諸国の農業政策の調査研究, 政策立案の業務を行なう。
- 初見 昇 ドイツ民主共和国 (50. 7. 30 ~ 50. 9. 2) 第17回国際夏期講座に参加および東洋学関係資料の調査
- 松谷敏雄 イラン・イラク・レバノン・シリア (50. 7. 25 ~ 50. 9. 24) イラク, イラン, レバノン, シリア, 各国において考古学的資料研究
- 白石 隆 アメリカ (50. 8. 1 ~ 51. 5. 26) 日本軍占領期の政治発展の研究
- 鎌田茂雄 台湾 (50. 8. 14 ~ 50. 9. 27) 道教儀礼に関する研究調査
- 関 寛治 大韓民国 (50. 9. 8 ~ 50. 9. 14) ソウルにおける朝鮮半島の平和地域に関する論文発表
- 中根千枝 イタリア (50. 9. 26 ~ 50. 10. 7) 東アジアにおける社会構造とその政治的側面の研究集会に出席
- 鈴木 敬 アメリカ・カナダ (50. 10. 10 ~ 50. 12. 26) 海外に所蔵されている中国絵画の研究ならびに資料蒐集

- 戸田禎佑 アメリカ・カナダ (50.10.10～50.12.26) 海外に所蔵されている中国絵画の研究ならびに資料蒐集
- 嶋田英誠 アメリカ・カナダ (50.10.10～50.12.26) 海外に所蔵されている中国絵画の研究ならびに資料蒐集
- 山田三郎 アメリカ (50.11.11～50.12.1) 生産性計測における新しい研究の諸発表に関する会議出席および食糧供給の可能性に関する調査研究
- 中根千枝 フィリピン・マレーシア (50.12.7～50.12.27) フィリピン、マレーシアにおける青年海外協力隊員の現地協力活動の視察
- 中村廣治郎 リビア・アラブ共和国 (51.1.30～51.2.8) ムスリムとクリスチャンの対話のためのセミナーに出席のため
- 中根千枝 インド (51.2.28～51.4.10) インドにおける集団構造の研究
- 鎌田茂雄 香港 (51.3.28～51.4.2) 仏教儀礼の研究
- 尾上兼英 シンガポール・香港・マレーシア (51.3.31～51.9.30) 明代通俗文芸の源流に関する研究
- 関 寛治 中国 (51.5.14～51.6.1) 日中協第4次訪中団員として中国の各方面視察および国際政治学の講義と討論
- 古山 学 イラン・イラク・クウェイト (51.5.15～52.3.31) イラン、イラクにおける古代遺跡の美術・考古学的調査・発掘
- 松谷敏雄 イラン・イラク (51.5.21～52.3.31) イラン、イラクにおける古代遺跡の美術・考古学的調査・発掘
- 深井晋司 イラン・イラク (51.6.1～52.1.31) イラン、イラクにおける古代遺跡の美術・考古学的調査・発掘

R. ヴィノグラード 東アジア美術史・考古学 51. 10. 1～53. 3. 31

内地研究員

(氏名)	(受入部門)	(期間・所属)
田中紀彦	汎アジア人文地理学	47. 5. 1～48. 2. 28 (静岡大学助教授)
坂野良吉	東アジア歴史	50. 9. 1～51. 2. 29 (静岡大学助教授)
藤田敬一	東アジア歴史	50. 9. 1～51. 2. 29 (岐阜大学助教授)
古廐忠夫	東アジア歴史	51. 9. 1～52. 2. 29 (新潟大学助教授)

流動研究員

(氏名)	(受入先)	(期間)
松丸道雄	京都大学人文科学研究所	47. 4. 1～48. 3. 31

J 調査研究事業

1 イラク・イラン遺跡調査研究

昭和42年3月、本研究所の江上波夫教授の退官にともない、江上波夫教授の主催する東京大学イラク・イラン遺跡調査団の海外調査はその整理ならびに報告書作成の段階に入った。本研究班はその目的をもって構成され、深井が班主任となりその後も同じメンバーで報告書の作成に従事し、昭和50年3月をもって解散した。

昭和47年2月には、第5次調査（昭和40年度）の際、イラン国ザブロス山脈中のケルマンシャー郊外のササン王朝時代の歴史遺跡ターク・イ・ブスターンを美術史、建築学的見地から調査した結果を東京大学イラク・イラン遺跡調査団報告13「ターク・イ・ブスターンⅡ」として出版した。編者の責任は、深井、堀内である。

昭和48年3月には、第5次調査（昭和40年度）の際、イラン国ファールス州マルヴ・ダシュト平原の最古の文化層を示すタル・イ・ムシュキ遺跡の発掘調査の成果を、同報告書14「マルヴ・ダシュトⅢ」として出版した。編者の責任は、深井、堀内、松谷である。

昭和50年3月には、同調査団報告の最終巻15を出版した。それが、「テル・サラートⅢ」であり、第5次調査（昭和40年度）の際イラク国北部の遺跡テル・サラート第5号丘の発掘の成果である。編者の責任は同報告書14と同じである。

本研究班は一応昭和50年3月で解散しているが、昭和51年度から隔年3回にわたるイラン・イラク両国での調査を深井を代表者として計画しており、昭和52年度より再びメンバーを新たにして発足させる予定である。

2 米国、カナダ所在の中国絵画の調査・研究

かつて日本における中国絵画の蒐集は中国につぐ質と量を誇ったが、戦後それ

らの蒐集は崩壊し、多くは海外に流出してしまった。近年中国美術ことに絵画史研究は異常な高まりを見せ、欧米においてはすぐれた研究者を輩出し、資料蒐集の面でもカリフォルニア大学（バークレー）、プリンストン大学、ことにミシガン大学アーカイヴが意欲的に作業を進めているものの、決して満足すべきものではない。他方、我国はその歴史的因果関係を見捨てては日本絵画史の考察は不可能という状況にありながら、中国絵画についての研究資料の蒐集は全く取り残されている。我々は過去10年余日本に残存する中国絵画の遺品を求めて、全国調査を行ない資料蒐集とその学会への公開を心掛けてきたが、今回、おおよそ16～17世紀までの中国絵画、就中、鑑賞的絵画を対象とし、その研究と資料博搜の場を米・加両国（50年度）さらに、ヨーロッパ、東南アジアに拡大し、能うかぎりの写真撮影調査を行ない、東京大学東洋文化研究所・東アジア美術史考古学部門を国内外の研究者が利用できる完備した"中国絵画史研究の資料センター"として位置づけようとするものである。調査団は代表者に、鈴木敬教授、団員に戸田禎佑助教授、嶋田英誠助手、海老根聰郎技官（東京国立博物館）、小林忠講師（名古屋大学文学部）、鈴木昭夫助手（東大文学部）が加わり、事業の費用は三菱財団学術研究助成金によって50年度の第一次米国およびカナダ所在の中国絵画約1800点の調査撮影を終了し、現在、蒐集資料の整理、調査目録の製作中である。

VI 東洋学文献センター

本文献センターは、東洋学に関する文献・情報を収集し、国内外の研究者に対し、各種のドキュメンテーション・サービスを行なうことにより、東洋学研究の格段の発展を期するものとして、昭和41年度に本研究所に設置された。発足以来、以下の各項の諸事業にとりくんできた。

1. 基本資料の収集

第一期3ヶ年計画で、近・現代中国、朝鮮刊行物等若干の資料収集と整理を進め、一応、所期の目的を達成したのち、引き続き、次の三種類の文献につき、その収集に努めている。

1) 中国・朝鮮の近・現代文献、特に逐次刊行物

2) 旧中国の政治・法律文献

3) 旧中国の戯曲・小説文献

2. 『東洋文化研究所漢籍分類目録』の編纂、刊行

昭和42年以来、重点的に本事業を推進し、昭和47年度に『本文篇』（A4版、1174頁）、次いで昭和49年度に『索引篇』（A4版、書名索引352頁、人名索引446頁、検字表39頁、計837頁）を刊行した。

3. 『東洋学文献センター叢刊』の編纂、刊行

東洋学研究者のための書誌、資料等のドキュメンテーション活動として、昭和42年度以来、本叢刊を編纂、刊行し、昭和50年度までに、第25輯に達した。

第1輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録（昭和41年度）

第2輯 清代地方劇資料集（一）

第3輯 清代地方劇資料集（二）

第4輯 周揚著訳論文周揚批判文献目録

第5輯 郁達夫資料

第6輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録（昭和42・43）

年度)

- 第7輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇 (上)
- 第8輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇 (中)
- 第9輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇 (下)
- 第10輯 李大釗文献目録
- 第11輯 明刊元雜劇西廂記目録
- 第12輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇・編著者名索引
- 第13輯 魯迅全集注釈索引
- 第14輯 1930年代中国文芸雑誌 (一)
- 第15輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇 (I)
- 第16輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇 (II)
- 第17輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇 (III)
- 第18輯 郁達夫資料補篇 (上)
- 第19輯 切韻残卷諸本補正
- 第20輯 目録学
- 第21輯 花間集索引
- 第22輯 郁達夫資料補篇 (下)
- 第23輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集 (一)
- 第24輯 江西蘇区文学運動資料
- 第25輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集 (二)

今後は、初見、沢谷、和泉各講師を中心とする事務室独自の編纂プロジェクトを推進して行く方針である。

4. 「センター通信」の編集、刊行

センターの活動を広く利用者に知らせるとともに、利用者の意見を載せる場として、「センター通信」(年1~2回、不定期)を編集、刊行し、昭和51年7月現在、第12号に達している。編集は事務室全員が当たっている。

5. 全国漢籍総合目録の作成(漢籍所在調査)

全国各地に未整理のまま散在する重要漢籍の所在を調査し、最終的には、全国漢籍総合目録を完成させることを目的として、昭和46年度より、各地機関の予備調査を開始、昭和48年度に本調査に着手、昭和51年7月現在、熊本大学附属図書館、落合文庫、八戸市立図書館の所蔵漢籍を目録化し、続いて長崎大学附属図書館経済学部分館について調査を実施している。現在、和泉、沢谷両講師が分担している。

6. 漢籍分類目録未収書の補完

2の『東洋文化研究所漢籍分類目録』編纂の過程で、20数万冊の蔵書の構成に若干の片寄りがあり、特に経部書、集部書、叢書部書に補充すべき漢籍が少なくないことが明らかになったため、昭和50年度より、これらの未収書で他機関の所蔵するものをマイクロフィルムで補充する計画を推進している。現在、沢谷講師が担当している。

7. 漢籍担当職員講習会の開催

5の漢籍所在調査の円滑化を計る目的で、昭和47年度以来、全国各地の図書館の漢籍担当職員に対し、文部省との共催で、漢籍目録実務の講習を行なってきた。実務指導は、主として沢谷、和泉両講師が当たっているが、ほかに、所内外の多数の専門家の協力を仰いでいる。昭和50年度までに四回、受講者は82機関、延 120人に達している。

附録 研究課題

昭和 47 年度

- 印 研究担当
- ※印 研究委嘱
- ㊦印 内地研究員
- ㊧印 非常勤講師

I 汎アジア経済——アジア諸国経済発展と農業—— 班主任 山田

- (1) 山田 三郎 アジアにおける農業生産性の比較分析
- (2) 原 洋之介 インドネシア農業の現段階
- (3) 逸見 謙三 アジアにおける農産物貿易
- ※(4) 鈴木 忠和 東南アジア農業発展の型
- ※(5) 滝川 勉 フィリピンの経済発展
- ※(6) 館 齊一郎 後進国における人口増加と経済開発
- ㊧(7) 速水 佑次郎 東アジア農業の発展過程

II 汎アジア人文地理学 班主任 大野

- (1) 大野 盛雄 生活様式論
- (2) 高橋 彰 人文地理学における地域研究の方法
- ㊦(3) 田中 紀彦 日本農業における地域構造の研究

III 汎アジア文化人類学 班主任 中根

- (1) 中根 千枝 日本・韓国における集団構造の比較
- (2) 青木 保 タイ社会における宗教とシンボリズムの構造論的研究
- ㊦(3) 末成 道男 台湾、韓国、日本における親族組織の比較

- ※ (4) 佐藤 信行 韓国の家族と宗教
- (5) 伊藤 亜人 韓国における宗教複合の分析

Ⅳ 東アジア政治・法律—東アジア国際政治— 班主任 関

- (1) 坂野 正高 近代中国における外交官・陸海軍士官養成の構造
- (2) 衛藤 藩吉 一九四九年以降の日中外交史
- ※ (3) 藤井 昇三 ワシントン体制崩壊期の国際政治と国内政治の連関
- (4) 関 寛治 第二次大戦後における東アジア国際政治構造の変動過程

Ⅴ 東アジア歴史—東アジアにおける変革とその歴史的基盤— 班主任 佐伯

- (1) 松丸 道雄 殷周時代の社会と国家
- (2) 関野 雄 先秦時代の経済機構
- (3) 西嶋 定生 東アジア世界の形成
- (4) 池田 温 中国律令と東アジア
- (5) 武田 幸男 朝鮮の律令制
- ※ (6) 柳田 節子 宋代における労働力の特質
- (7) 佐伯 有一 明清期の権力構造
- (8) 田中正俊 世界史における中国産業構造の特質
- (9) 古島 和雄 現代中国における民衆運動と統一戦線
- ※ (10) 菅沼 正久 中国の社会主義建設の提起する諸問題
- ※ (11) 梶村 秀樹 朝鮮現代の経済政策と東アジア

Ⅵ 東アジア美術史・考古学 宋元仏画研究 班主任 鈴木

- (1) 鈴木 敬 宋元仏画の表現形式について
- ※ (2) 川上 涇 宋元仏画中にみる山水表現の研究
- ※ (3) 戸田 禎佑 宋元仏画における花鳥表現の研究

※(4) 海老根 聡 郎 宋元の禅宗絵画

VII 東アジア哲学・宗教 中国の思想と宗教 班主任 窪

- ㊦(1) 泰 本 融 中国の論理思想と仏教論理学説
- ㊦(2) 塩 入 良 雄 中国における禅観思想
- (3) 鎌 田 茂 雄 唐代における仏教と道教
- (4) 蜂 屋 邦 夫 儒仏との関係における全真教教理の研究
- (5) 窪 徳 忠 元代における三教関係

VIII 東アジア文学 班主任 尾上

- (1) 溝 口 雄 三
 - (2) 小 林 サ エ
 - (3) 尾 上 兼 英
 - (4) 田 仲 一 成
 - ※(5) 伝 田 章
 - ㊦(6) 青 山 宏
 - (7) 高 田 淳
 - (8) 丸 山 松 幸
 - (9) 丸 山 昇
 - ㊦(10) 三 宝 政 美
 - (11) 尾 上 兼 英
- 明清時代の思想と文学
- 近現代の思想と文学

IX 南アジア政治・経済 インドにおける支配体制と社会構造 班主任 荒

- (1) 山 崎 利 男 古代インド社会の変貌
- (2) 荒 松 雄 インドにおける宗教と政治・社会
- (3) 松 井 透 イギリス植民地支配とインド社会
- (4) 山 崎 利 男 英領インドにおける司法制度

- (5) 長崎 暢子 イギリス支配下の民族形成と政治権力
- ㊦ (6) 中村 平次 現代インド政治における分化と統合
—— 政党政治の消長をめぐって ——
- ※ (7) 鈴木 斌 インド・パキスタンのムスリム社会

X 西アジア歴史・文化

班主任 深井

- ※ (1) 松谷 敏雄 イラン高原における初期農耕村落
- (2) 黒田 和彦 ハンムラビ時代の社会と文化
- (3) 深井 晋司 パルティア・ササン朝美術の特質
- (4) 佐藤 次高 西アジアの中世イスラム社会
- (5) 中村 廣治郎 中世イスラームの神秘思想

共同研究

A 新興諸国の政治変動と国際環境

班主任 関

- ㊦ (1) 高島 通敏 政治変動の計量分析 その一
- (2) 関 寛治 政治変動の計量分析 その二
- ※ (3) 白鳥 令 新興諸国における政治発展の概念と理論
- ※ (4) 沖野 安春 比較政治学における政治発展の系譜
- ※ (5) 浦野 起央 アジア・アフリカ・ラテンアメリカの政治変動の比較
- (6) 森 利一 政治変動, 政治的近代化, 政治発展 インドのケース
- ※ (7) 萩原 宜之 マラヤのコミュナリズムと階層分化
- ※ (8) 高柳 先男 国際政治と比較政治のリンケツジ現象の分析

B アジアの農村

班主任 大野

- (1) 大野 盛雄 西アジアの農村

- (2) 高橋 彰 東南アジアの農村
- (3) 松井 透 インドの農村
- ※ (4) 大岩川 和正 イスラエルの農村
- ※ (5) 友杉 孝 タイの農村
- (6) 佐藤 次高 エジプトの農村
- ※ (7) 江波戸 昭 アジア農村の地理学的研究
- ※ (8) 菱口 善美 インド・パングラの農村

C 東南アジアの社会経済組織

班主任 高橋

- (1) 高橋 彰 農業における技術発展と社会経済制度
——いわゆるグリーンレポリューションを中心に——
- (2) 山田 三郎 タイの経済組織
- (3) 原 洋之介 インドネシア農村における共同体

D 近代日本の社会と思想

班主任 大野

- (1) 大野 盛雄 農業・農村に関する日本的価値観
- (2) 柳川 啓一 } 戦後における宗教集団の変化
- ◎ 井門 富二夫 } 戦後における宗教集団の変化
- ※ 森岡 清美 } 戦後における宗教集団の変化
- ※ (3) 宮川 透 日本文化と価値意識
- ※ 生松 敬三 日本文化と価値意識

E 旧植民地の研究

班主任 佐伯

- (1) 佐伯 有一 ブロック経済の史的性格
- ※ (2) 梶村 秀樹 同化と分析
- ※ (3) 姜 徳相 三一運動論
- ※ (4) 戴 国輝 台湾における土地調査事業

- ※ (5) 小島麗逸 満洲における労働力問題
- (6) 加藤祐三 植民政策の系譜

F 明代史の総合研究

班主任 佐伯

- (1) 佐伯有一 明末清初の社会構造
- ※ (2) 小山正明 明代国家権力と村落支配
- (3) 尾上兼英 小説盛行の基盤
- (4) 田仲一成 明代演劇の研究
- ※ (5) 溝口雄三 明末に生きた李卓吾
- (6) 小林サエ 「清代禁書」における陽明学の影響
- (7) 鈴木敬 呉派文人画の成立
- (8) 戸田禎佑 明末董其昌様式の変容
- (9) 窪徳忠 浄明道と全真教
- (10) 鎌田茂雄 明代の仏教

G 全真教教理の研究

班主任 窪

- 窪 徳 忠
- 蜂 屋 邦 夫
- 尾 上 兼 英
- 鎌 田 茂 雄
- 小 林 サ エ

附属 I 西アジアにおける先史・歴史遺跡の研究

班主任 深井

- ※ (1) 池田次郎 古代西アジアの人種問題
- ※ (2) 堀内清治 古代西アジアにおけるドーム建築
- ※ (3) 増田精一 イラン高原における彩文土器の文化
- (4) 深井晋司 ターク・イ・ブスターンの諸問題

※ (5) 杉 山 二 郎 ササン朝ペルシアの文様について

附属 II 西アジア農村の実証的（人文地理学的）研究 班主任 大野

(1) 大 野 盛 雄 村落構造の研究

※ (2) 勝 藤 猛 西アジア農村の歴史的背景

※ (3) 安 部 喜 也 土地および水利用の研究

○ (4) 加 納 康 彦 西アジアにおける家畜の生態に関する研究

- (2) 衛 藤 藩 吉 一九四九年以降の日中交渉史
- ※ (3) 藤 井 昇 三 ワシントン体制崩壊期の国際政治と国内政治の連関
- (4) 関 寛 治 第二次大戦後における東アジア国際政治構造の変動過程

V 東アジア歴史——東アジアにおける変革とその歴史的基盤——班主任 佐伯

- (1) 松 丸 道 雄 殷周時代の社会と国家
- (2) 関 野 雄 先秦時代の経済機構
- (3) 西 嶋 定 生 東アジア世界の形成
- (4) 池 田 温 中国律令と東アジア
- (5) 武 田 幸 男 朝鮮の律令制
- ※ (6) 平 野 邦 雄 日本古代社会組織の形成
- ※ (7) 青 木 和 夫 日本律令国家の性格
- ※ (8) 堀 敏 一 唐宋の変革と東アジア
- ※ (9) 柳 田 節 子 宋代における労働力の特質
- (10) 佐 伯 有 一 明清期の権力構造
- (11) 田 中 正 俊 世界史における中国産業構造の特質
- (12) 古 島 和 雄 現代中国における民衆運動と統一戦線
- ㊦ (13) 菅 沼 正 久 中国の社会主義建設の提起する諸問題
- ※ (14) 梶 村 秀 樹 朝鮮現代の経済政策と東アジア

VI 東アジア美術史・考古学——宋元仏画研究および中国絵画の光学的調査——

班主任 鈴木

- (1) 鈴 木 敬 宋元仏画の表現形式および中国画の光学的基礎調査
- (2) 戸 田 禎 佑 宋元仏画における花鳥表現の研究および中国画の光学的基礎研究

- ※ (3) 川 上 涇 宋元仏画中にみる山水表現の研究
 ※ (4) 海老根 聡 郎 宋元の禅宗絵画

- VII 東アジア哲学・宗教——中国の思想と宗教—— 班主任 窪
 (1) 蜂 屋 邦 夫 六期時代の思想状況について——三教交渉の観点から——
 ㊦ (2) 塩 入 良 道 天台懺法の研究
 (3) 鎌 田 茂 雄 圭峯宗密の研究
 (4) 窪 徳 忠 明代の浄明道と全真教

- VIII 東アジア文学 班主任 尾上
 (1) 明清思想研究
 ※ (1) 溝 口 雄 三 明末に見られる思想の屈折と転換
 (2) 小 林 サ エ 西学輸入の思想的基盤
 (2) 戯曲小説研究
 ㊦ (1) 青 山 宏 『西廂記』と詞の語彙比較
 (2) 尾 上 兼 英 『西廂記』と明代小説
 (3) 田 仲 一 成 『西廂記』諸注校補
 ※ (4) 伝 田 章 『西廂記』諸版本の比較
 (3) 近現代の思想と文学の研究
 ○ (1) 高 田 淳 辛亥革命後の思想運動
 ○ (2) 丸 山 松 幸 毛沢東思想の成立
 ○ (3) 丸 山 昇 三十年代“左翼作家連盟”の研究
 (4) 尾 上 兼 英 三十年代“文学研究会”系作家の研究
 ※ (5) 伊 藤 虎 丸 三十年代“創造社”系作家の研究

- IX 南アジア政治・経済——インドにおける支配体制と社会構造—— 班主任 荒
 (1) 山 崎 利 男 古代インド社会の変貌

- (2) 荒 松 雄 インドにおける宗教と政治・社会
- (3) 松 井 透 イギリス植民地支配とインド社会
- (4) 山 崎 利 男 英領インドにおける司法制度
- (5) 長 崎 暢 子 イギリス支配下の民族形成と政治権力
- ※ (6) 土 屋 健 治 植民地支配と民族主義
- ※ (7) 中 村 平 次 現代インド政治における分化と統合
—— 政党政治の消長をめぐって ——
- ※ (8) 鈴 木 斌 インド・パキスタンのムスリム社会

X 西アジア歴史・文化

班主任 深井

- (1) 松 谷 敏 雄 イラン高原における初期農耕村落
- (2) 黒 田 和 彦 ハンムラビ時代の社会と文化
- (3) 深 井 晋 司 バルティア美術の特質とその発展
- (4) 佐 藤 次 高 西アジアの中世イスラム社会
- (5) 中 村 廣治郎 イスラムの社会思想

共 同 研 究

A 新興諸国の政治変動と国際環境

班主任 関

- ㊦ (1) 高 島 通 敏 政治変動の計量分析
- (2) 関 寛 治 東南アジア国際関係の変動
—— モデルとデータ分析 ——
- ※ (3) 白 鳥 令 新興諸国における政治発展の概念と理論
- ※ (4) 沖 野 安 春 比較政治学における政治発展論の系譜
- ※ (5) 西 川 潤 第三世界の政治経済・社会構造の変動
- ※ (6) 森 利 一 政治変動, 政治的近代化, 政治発展—インドのケース—
- ※ (7) 萩 原 宜 之 マラヤのコミュナリズムと階層分化

※ (8) 高 柳 先 男 国際政治と比較政治のリンケッジ現象の分析

B アジアの農村

班主任 大野

(1) 大 野 盛 雄 西アジアの農村

(2) 松 井 透 インドの農村

(3) 佐 藤 次 高 エジプトの農村

(4) 後 藤 晃 イランの農村

○ (5) 高 橋 彰 東南アジアの農村

※ (6) 大岩川 和 正 イスラエルの農村

Ⓢ (7) 友 杉 孝 タイの農村

※ (8) 菱 口 善 美 インド・パングラデシの農村

※ (9) 江波戸 昭 アジアの農村の地理学的研究

C 近代日本の社会と思想

班主任 大野

(1) 大 野 盛 雄 農業・農村に関する日本的価値観

○ (2) 柳 川 啓 一

Ⓢ (3) 井 門 富士夫 } 戦後における宗教集団の変化

※ (4) 森 岡 清 美 }

※ (5) 宮 川 透 }

※ (6) 生 松 敬 三 } 日本文化と価値意識

D 旧植民地の研究

班主任 佐伯

(1) 佐 伯 有 一 ブロック経済の史的性格

※ (2) 梶 村 秀 樹 同化と分析

※ (3) 姜 徳 相 三一運動論

※ (4) 戴 国 輝 台湾における土地調査事業

※ (5) 小 島 麗 逸 満洲における労働力問題

※ (6) 加藤 祐三 植民政策の系譜

E 明代史の総合研究

班主任 佐伯

- (1) 佐伯 有一 明末清初の社会構造
- ※ (2) 小山 正明 明代国家権力と村落支配
- (3) 尾上 兼英 章回小説の成立
- (4) 田仲 一成 明代演劇の研究
- ※ (5) 溝口 雄三 明清思想における中国的展開
- (6) 小林 サエ 「清代禁書」の研究
- (7) 鈴木 敬 呉派文人画の成立
- (8) 戸田 禎佑 明末董其昌様式の変容
- (9) 窪 徳忠 浄明道と全真教
- (10) 鎌田 茂雄 明代の仏教

F 中国古代礼制の研究

班主任 田仲

- (1) 尾上 兼英
- (2) 田仲 一成
- (3) 蜂屋 邦夫
- (4) 陳 明新
- (5) 前野 直彬 } 唐賈公彦等「儀礼疏」注解・校補
- (6) 竹田 晃
- (7) 戸川 芳郎
- (8) 今西 凱夫
- ※ (9) 佐藤 保

附属 I 西アジアにおける先史・歴史遺跡の研究

班主任 深井

- ※ (1) 池田 次郎 古代西アジアの人種問題

- ※ (2) 堀内清治 古代西アジアにおけるドーム建築
- ※ (3) 増田精一 イラン高原における彩文土器の文化
- (4) 深井晋司 ターク・イ・ブスターンの諸問題
- ※ (5) 杉山二郎 ササン朝ペルシアの文様について

附属Ⅱ 西アジア農村の実証的（人文地理学的）研究

班主任 大野

- (1) 大野盛雄 村落構造の研究
- (2) 後藤晃 西アジア農村の農業経済学的研究
- (3) 加納康彦 西アジアにおける家畜の生態に関する研究
- ※ (4) 勝藤猛 西アジア農村の歴史的背景
- ※ (5) 安部喜也 土地及び水利用の研究

昭和 49 年度

I 汎アジア経済——アジア諸国経済発展と農業—— 班主任 山田

- (1) 山田 三郎 アジア諸国農業成長過程の比較分析
- (2) 原 洋之介 アジア研究における経済発展論の位置
- (3) 逸見 謙三 アジアにおける農産物貿易
- ※ (4) 鈴木 忠和 アジアの経済発展と教育
- ※ (5) 館 齊一郎 アジア諸国の人口と経済開発
- ※ (6) 速水 佑次郎 東アジア農業の発展課程
- (7) 荏開津 典生 東アジアの経済発展と労働力
- ※ (8) 今岡 日出紀 中国の資本蓄積と農業発展

II 汎アジア人文地理学 班主任 大野

- (1) 大野 盛雄 生活様式論
- (2) 後藤 晃 都市と農村の広域地域論
- ※ (3) 田中 紀彦 日本農業における地域構造の研究

III 汎アジア文化人類学 班主任 中根

- (1) 中根 千枝 集団構成ならびにネットワークの比較研究
(東南アジア, 東アジア)
- (2) 松谷 敏雄 乾燥地帯における水と村落
- (3) 伊藤 亜人 韓国における宗教複合の分析 (珍東・安東)
- ※ (4) 佐藤 信行 韓国の家族と村落 (済州島・安東)
- ※ (5) 末成 道男 韓国両班村落の研究

IV 東アジア政治・法律 東アジアの国際政治 班主任 関

- (1) 坂野正高 近代中国における外交官・陸海軍士官養成の構想
- (2) 衛藤藩吉 一九四九年以降の日中交渉史
- ※ (3) 藤井昇三 ワシントン体制崩壊期の国際政治と国内政治の連関
- (4) 関寛治 第二次大戦後における東アジア国際政治構造の変動過程

V 東アジア歴史——東アジアにおける変革とその歴史的基盤—— 班主任 佐伯

(1) 律令制の比較史研究

- (1) 西嶋定生 東アジア世界の形成
- (2) 池田温 中国律令制の展開
- (3) 武田幸男 朝鮮の律令制
- ※ (4) 青木和夫 日本律令国家の性格
- ※ (5) 平野邦雄 日本古代社会組織の形成
- ※ (6) 堀敏一 唐宋の変革と東アジア

(2) 中国近代の変革と諸前提

- ※ (1) 柳田節子 宋代における労働力の特質
- (2) 佐伯有一 明清期の権力構造
- (3) 田中正俊 世界史における中国産業構造の特質
- (4) 小杉修二 国民党政権とその基礎構造
- (5) 古島和雄 現代中国における民衆運動と統一戦線
- ㊦ (6) 菅沼正久 中国の社会主義建設の提起する諸問題

VI 東アジア美術史・考古学——宋元仏画研究および中国絵画 班主任 鈴木

の光学的調査——

- (1) 鈴木敬 十王図、画中山水画の研究
- (2) 戸田禎佑 羅漢図像の研究
- ※ (3) 川上涇 十王図像の系譜に関する研究

※ (4) 海老根 聡 郎 宋元の禅宗絵画

VII 東アジア哲学・宗教——中国の思想と宗教——

班主任 鎌田

㊦ (1) 泰 本 融 インド論理学と仏教思想

※ (2) 蜂 屋 邦 夫 三国・六朝時代における中国思想の展開

※ (3) 江 島 恵 教 空観の中国的変異

※ (4) 塩 入 良 道 六朝仏教における儒道二教批判

※ (5) 平 井 俊 栄 六朝仏教における般若と老荘

(6) 鎌 田 茂 雄 宗密における中国思想と仏教

VIII 東アジア文学

班主任 尾上

(1) 明清思想研究

※ (1) 溝 口 雄 三 明末に見られる思想の屈折と転換

(2) 岡 本 サ エ 西学輸入の思想的基盤

(2) 戯曲小説研究

※ (1) 青 山 宏 『西廂記』と詞の語彙比較

(2) 尾 上 兼 英 『西廂記』と明代小説

(3) 田 仲 一 成 『西廂記』諸注校補

○ (4) 伝 田 章 『西廂記』諸版本の比較

(3) 1930年代文学の研究

○ (1) 丸 山 昇 三十年代“左翼作家連盟”の研究

(2) 尾 上 兼 英 三十年代“文学研究会”系作家の研究

㊦ (3) 伊 藤 虎 丸 三十年代“創造社”系作家の研究

IX 東北アジア —— 春秋戦国期列国の総合的研究 ——

班主任 松丸

※ (1) 宇都木 章

※ (2) 小 倉 芳 彦 } 文献学的研究

- ※ (3) 後藤均平
- (4) 松丸道雄 金文学的研究
- (5) 関野雄 考古学的研究

X 東南アジア経済・社会

班主任 松井

- (1) 関寛治 現代東南アジア国際関係論
- (2) 松井透 東南アジア社会とインド移民
- (3) 山田三郎 東南アジア農業の比較研究
- (4) 原洋之介 東南アジアの経済発展と技術移転
- (5) 高橋彰 経済発展における非経済的要因
- ㊦ (6) 池端雪浦 日本占領期のフィリピンの政治と文化
- ※ (7) 土屋健治 インドネシアの社会と政治

XI 南アジア政治・経済

班主任 荒

——インドにおける支配体制と社会構造——

- (1) 山崎利男 古代インド社会の変貌
- (2) 荒松雄 インドにおける宗教と政治・社会
- (3) 松井透 イギリス植民地支配とインド社会
- (4) 山崎利男 英領インドにおける司法制度
- (5) 長崎暢子 イギリス支配下の民族形成と政治権力
- ※ (6) 中村平次 現代インド政治における分化と統合

——政党政治の消長をめぐって——

XII 西アジア歴史・文化

班主任 深井

- (1) 松谷敏雄 イラン高原における初期農耕村落
- ㊦ (2) 黒田和彦 ハンムラビ時代の社会と文化
- (3) 深井晋司 パルティア美術の特質とその発展

- ※ (4) 佐藤次高 西アジアの中世イスラム社会
 (5) 中村廣治郎 イスラムの社会思想

共同研究

A 新興諸国の政治変動と国際環境 班主任 関

- (1) 関寛治 東南アジア国際関係の変動
 ——モデルとデータ分析——
- ※ (2) 沖野安春 比較政治学における政治発展論の系譜
- ㊦ (3) 西川潤 第三世界の政治経済・社会構造の変動
- ※ (4) 森利一 政治変動・政治的近代化, 政治発展
 ——インドのケース——
- ※ (5) 萩原宜之 マラヤのコミュナリズムと階層分化
- ※ (6) 高柳先男 国際政治と比較政治のリンケッジ現象の分析

B アジアの農村 班主任 大野

- (1) 大野盛雄 西アジアの農村
- (2) 松井透 インドの農村
- ※ (3) 佐藤次高 エジプトの農村
- (4) 後藤晃 イランの農村
- (5) 高橋彰 東南アジアの農村
- ※ (6) 大岩川和正 イスラエルの農村
- ㊦ (7) 友杉孝 タイの農村
- ※ (8) 菱口善美 インド・バングラデシの農村
- ※ (9) 江波戸昭 アジアの農村の地理学的研究
- ※ (10) 青木保 タイの宗教構造——都市と農村における——

C 旧日本植民地の研究

班主任 佐伯

- (1) 佐伯 有 一 ブロック経済の史的性格
- ※ (2) 梶 村 秀 樹 同化と分析
- ※ (3) 姜 德 相 三一運動論
- ※ (4) 戴 国 輝 台湾における土地調査事業
- ※ (5) 小 島 麗 逸 満洲における労働力問題
- ※ (6) 加 藤 祐 三 植民政策の系譜

D 明代史の総合研究

班主任 佐伯

- (1) 佐伯 有 一 明末清初の社会構造
- ※ (2) 小 山 正 明 明代国家権力と村落支配
- (3) 尾 上 兼 英 章回小説の成立
- (4) 田 仲 一 成 明代演劇の研究
- ※ (5) 溝 口 雄 三 明清思想における中国的展開
- (6) 岡 本 サ エ 「清代禁書」の研究
- (7) 鈴 木 敬 呉派文人画の成立
- (8) 戸 田 禎 佑 明末董其昌様式の変容
- (9) 鎌 田 茂 雄 明代の仏教

E 中国古代礼制の研究

班主任 田仲

- (1) 尾 上 兼 英
- (2) 田 仲 一 成
- ※ (3) 蜂 屋 邦 夫
- (4) 陳 明 新
- (5) 前 野 直 彬 } 唐賈公彦等「儀礼疏」注解・校補
- (6) 竹 田 晃
- (7) 戸 川 芳 郎
- (8) 今 西 凱 夫
- ※ (9) 佐 藤 保

F インド史における宗教と社会

班主任 荒

- (1) 荒 松 雄 インド史におけるイスラム神秘主義の展開
- ㊦ (2) 鈴木 斌 インドにおけるスーフィー廟の機能と役割
- (3) 山崎 利 男 ヒンドゥー法と宗教
- ※ (4) 田中 敏 雄 ヒンディー文学と宗教
- ※ (5) 月輪 時 房 インドにおける宗教建造物の構造

附属I 西アジアにおける先史・歴史遺跡の研究

班主任 深井

- ※ (1) 池田 次 郎 古代西アジアの人種問題
- ※ (2) 堀内 清 治 古代西アジアにおけるドーム建築
- ※ (3) 増田 精 一 イラン高原における彩文土器の文化
- (4) 深井 晋 司 ターク・イ・ブスターンの諸問題
- ※ (5) 杉山 二 郎 ササン朝ペルシアの文様について

附属II 西アジア農村の実証的（人文地理学的）研究

班主任 大野

- (1) 大野 盛 雄 村落構造の研究
- (2) 後藤 晃 西アジア農村の農業経済学的研究
- (3) 加納 康 彦 西アジアにおける家畜の生態に関する研究
- ※ (4) 田中 紀 彦 西アジアにおける農業の地域構造の研究

昭和 50 年度

I 汎アジア経済——アジア諸国経済発展と農業—— 班主任 山田

- (1) 山田三郎 アジア諸国農業成長過程の比較分析
- (2) 原洋之介 アジア研究における経済発展論の位置
- (3) 逸見謙三 アジアにおける農産物貿易
- ※ (4) 鈴木忠和 アジアの経済発展と教育
- (5) 館斉一郎 アジア諸国の人口と経済開発
- (6) 荏開津典生 東アジアの経済発展と労働力
- ※ (7) 谷口興二 タイにおける農産物流通問題

II 汎アジア人文地理学 班主任 田中

- (1) 大野盛雄 生活様式論
- (2) 田中紀彦 農業地域構造論
- (3) 後藤晃 都市と農村の広域地域論

III 汎アジア文化人類学 班主任 中根

- (1) 中根千枝 集団構成ならびにネットワークの比較研究
(東南アジア, 東アジア)
- (2) 松谷敏雄 乾燥地帯における水と村落
- (3) 伊藤亜人 韓国における宗教複合の分析 (珍東・安東)
- ※ (4) 佐藤信行 韓国の家族と村落 (済州島・安東)
- ㊦ (5) 末成道男 韓国両班村落の研究

IV 東アジア政治・法律——中国の法と政治—— 班主任 関

- (1) 衛藤藩吉 中国の統治機構の変遷

- (2) 坂野正高 清末の政策決定機構と外交実務家
——特に馬建忠について——
- (3) 平野健一郎 清末民初の東三省統治政策
- (4) 滋賀秀三 伝統中国における裁判の準則としての法
- ※ (5) 藤井昇三 ワシントン体制下における中国の平和
- (6) 関寛治 中国と連関する国際構造の変動

V 東アジア歴史——東アジアにおける変革とその歴史的基盤—— 班主任 佐伯

(1) 律令制の比較史的研究

- (1) 西嶋定生 東アジア世界の形成
- (2) 池田温 中国律令制の展開
- (3) 武田幸男 朝鮮の律令制
- ※ (4) 青木和夫 日本律令国家の性格
- ※ (5) 平野邦雄 日本古代社会組織の形成
- (6) 土田直鎮 日本律令制の崩壊過程
- ※ (7) 堀敏一 唐宋の変革と東アジア

(2) 中国近代の変革と諸問題

- ※ (1) 柳田節子 宋代における労働力の特質
- (2) 佐伯有一 明清期の権力構造
- (3) 田中正俊 世界史における中国産業構造の特質
- (4) 小杉修二 国民党政権とその基礎構造
- (5) 古島和雄 現代中国における民衆運動と統一戦線
- Ⓢ (6) 菅沼正久 中国の社会主義建設の提起する諸問題
- ※ (7) 藤田敬一 中国近代史における民族・国家・階級について
——梁啓起を中心に——
- ※ (8) 坂野良吉 中国ソヴェート革命の研究

VI 東アジア美術史・考古学——宋元仏画の研究——

班主任 鈴木

- (1) 鈴木 敬 宋元仏画の山水表現
- (2) 戸田 禎 佑 宋元仏画の人物表現
- (3) 嶋田 英 誠 宋元仏画の花鳥表現
- ※ (4) 川上 涇 宋元仏画のイコノグラフィー
- ※ (5) 海老根 聡 郎 禅宗系絵画に関する諸問題
- ※ (6) 小林 忠 宋元仏画の日本絵画におよぼす影響

VII 東アジア哲学・宗教——中国の思想と宗教——

班主任 鎌田

- ※ (1) 劉 文 猷 先秦儒学の言語と思想——孟子の場合——
- (2) 蜂屋 邦 夫 神滅論争における儒家と釈家
- ※ (3) 福井 文 雅 六朝道教と外来文化
- ※ (4) 江島 恵 教 空観の中国的変異
- ㊦ (5) 平井 俊 栄 中国三論宗の形成と展開
- ※ (6) 塩入 良 道 随唐仏教の宗派的性格
- ※ (7) 泰 本 融 唐代における仏教論理学の研究と唯識思想
- (8) 鎌田 茂 雄 唐代における仏教と道教

VIII 東アジア文学

班主任 尾上

(1) 明清思想研究

- ※ (1) 溝口 雄 三 明末に見られる思想の屈折と転換
- (2) 岡本 サ エ 西学論入の思想的基盤

(2) 戯曲小説研究

- ※ (1) 青山 宏 『西廂記』と詞の語彙比較
- (2) 尾上 兼 英 『西廂記』と明代小説
- (3) 田 仲 一 成 『西廂記』諸注校補
- (4) 伝 田 章 『西廂記』諸版本の比較

○ (5) 平山久雄 『西廂記』における曲韻の研究

(3) 1930年代文学の研究

○ (1) 丸山昇 三十年代“左翼作家連盟”の研究

(2) 尾上兼英 三十年代“文学研究会”系作家の研究

㊦ (3) 伊藤虎丸 三十年代“創造社”系作家の研究

IX 東北アジア——春秋戦国列国の総合的研究——

班主任 松丸

- | | | |
|-------------|---|--------|
| ※ (1) 宇都木 章 | } | 文献学的研究 |
| ※ (2) 小倉 芳彦 | | |
| ※ (3) 後藤 均平 | | |
| (4) 池田 温 | | |
| (5) 蜂屋 邦夫 | | |
| (6) 松丸 道雄 | | 金文学的研究 |
| ○ (7) 関野 雄 | } | 考古学的研究 |
| ○ (8) 飯島 武次 | | |

X 東南アジア経済・社会

班主任 松井

- | | |
|---------------|-------------------|
| (1) 関 寛 治 | 現代東南アジア国際関係論 |
| (2) 松 井 透 | 東南アジア社会とインド移民 |
| (3) 山 田 三 郎 | 東南アジア農業の比較研究 |
| (4) 原 洋之介 | 東南アジアの経済発展と技術移転 |
| (5) 白 石 隆 | 東南アジアの政治発展と華僑 |
| ○ (6) 高 橋 彰 | 経済発展における非経済的要因 |
| ㊦ (7) 池 端 雪 浦 | 日本占領期のフィリピンの政治と文化 |
| ○ (8) 加 納 啓 良 | インドネシア経済史 |

XI 南アジア政治・経済

班主任 山崎

インドにおける支配体制と社会構造

- (1) 山崎 利 男 古代インド社会の変貌
- (2) 荒 松 雄 インドにおける宗教と国家
- (3) 松 井 透 イギリス植民地支配とインド社会
- (4) 山崎 利 男 英領インドにおける司法制度
- (5) 長崎 暢 子 イギリス支配下の民族形成と政治権力
- ※ (6) 中 村 平 次 現代インド政治における分化と統合
——政党政治の消長をめぐって——

XII 西アジア歴史・文化

班主任 深井

- (1) 松 谷 敏 雄 イラン高原における初期農耕村落
- ㊦ (2) 黒 田 和 彦 ハンムラビ時代の社会と文化
- (3) 深 井 晋 司 パルティア美術の特質とその発展
- ※ (4) 佐 藤 次 高 西アジアの中世イスラム社会
- (5) 中 村 廣 治 郎 イスラムの社会思想

共 同 研 究

A 第三世界のなかのアジア —— 平和学構築の諸条件 ——

班主任 関

- ※ (1) 高 島 通 敏 第三世界における民衆運動
- (2) 石 田 雄 第三世界と比較政治文化
- ※ (3) 西 川 潤 第三世界の政治・経済・社会構造の変動
- (4) 坂 本 義 和 第三世界と世界秩序
- ㊦ (5) 長 井 信 一 東南アジア国際関係におけるマレーシアの国民形成
- ※ (6) 森 利 一 核拡散の論理と現実 第三世界のケース
- ※ (7) 大 西 昭 第三世界を含む平和国際経済秩序の可能性

- ※ (8) 白 鳥 令 第三世界と国内政治
- (9) 関 寛 治 第三世界の平和理論構策の諸条件

B アジアの農村

班主任 田中

- (1) 大 野 盛 雄 アジア農村研究の視角と方法
- (2) 松 井 透 インドの農村
- (3) 田 中 紀 彦 西アジアの農村と都市
- (4) 後 藤 晃 イランの農村
- (5) 高 橋 彰 東南アジアの農村
- ⊕ (6) 大岩川 和 江 イスラエルの農村
- ※ (7) 友 杉 孝 タイの農村
- ※ (8) 菱 口 善 美 インド・パングラデシュの農村
- ※ (9) 江波戸 昭 アジアの農村の地理学的研究
- ※ (10) 青 木 保 タイの宗教構造——都市と農村における——
- ※ (11) 佐 藤 次 高 エジプトの農村

C 東アジアにおける植民地支配と解放運動

班主任 佐伯

- (1) 佐 伯 有 一 ブロック経済の史的性格
- ※ (2) 梶 村 秀 樹 同化と分断
- ※ (3) 姜 徳 相 三一運動論
- ※ (4) 安 宇 植 呂運亨の研究
- ※ (5) 戴 国 輝 台湾における土地調査事業
- ※ (6) 小 島 麗 逸 満洲における労働力問題
- ※ (7) 加 藤 祐 三 植民政策の系譜

D 明代史の総合研究

- (1) 佐 伯 有 一 明末清初の社会構造 班主任 佐伯

- ※(2) 小山正明 明代国家権力と村落支配
- (3) 尾上兼英 章回小説の庶民性
- (4) 田仲一成 明代演劇の研究
- ※(5) 溝口雄三 明清思想における中国的展開
- (6) 岡本サエ 「清代禁書」の研究
- (7) 鈴木敬 呉派文人画の成立について
- (8) 戸田禎佑 呉彬の人物画風の成立について
- (9) 嶋田英誠 浙派「狂態邪学」様式の成立について
- (10) 鎌田茂雄 明代の仏教

E 中国古代礼制の研究

班主任 蜂屋

- (1) 尾上兼英
- (2) 田仲一成
- (3) 蜂屋邦夫
- (4) 陳明新
- (5) 前野直彬 } 唐賈公彦「儀礼疏」注解・校補
- (6) 竹田晃
- (7) 戸川芳郎
- (8) 今西凱夫
- ※(9) 佐藤保
- (10) 岡本サエ

F インド史における宗教と社会

班主任 荒

- (1) 荒松雄 インド史におけるイスラム神秘主義の展開
- ㊦(2) 鈴木斌 インドにおけるスーフィ廟の機能と役割
- (3) 山崎利男 ヒンドゥー法と宗教
- ※(4) 田中敏雄 ヒンディー文学と宗教

※ (5) 月 輪 時 房 インドにおける宗教建造物の構造

附属Ⅰ 西アジア農村の実証的（人文地理学的）研究

班主任 田中

(1) 大 野 盛 雄 村落構造の研究

(2) 田 中 紀 彦 西アジアにおける農業の地域構造の研究

(3) 後 藤 晃 西アジア農村の農業経済学的研究

○ (4) 加 納 康 彦 西アジアにおける家畜の生態に関する研究

昭和 51 年度

I 汎アジア経済——アジア諸国経済発展と農業—— 班主任 山田

- (1) 山 田 三 郎 アジア諸国農業生産構造の比較分析
- (2) 原 洋之介 アジア地域における農業発展の展望
- (3) 逸 見 謙 三 アジアにおける農産物貿易
- ※ (4) 鈴 木 忠 和 アジアの経済発展と教育
- ※ (5) 館 齊一郎 アジア諸国の人口と経済開発
- (6) 荏開津 典 生 東アジアの経済発展と労働力
- ※ (7) 谷 口 興 二 タイにおける農産物流通問題
- (8) 秋 野 正 勝 アジア諸国農村開発と日本の経験

II 汎アジア人文地理学 班主任 大野

- (1) 大 野 盛 雄 生活様式論
- (2) 田 中 紀 彦 農業地域構造論
- (3) 後 藤 晃 都市と農村の広域地域論

III 汎アジア文化人類学 班主任 中根

- (1) 中 根 千 枝 集団構造の比較研究
- (2) 松 谷 敏 雄 乾燥地帯における水と村落
- (3) 伊 藤 亜 人 韓国における宗教複合の分析
- ※ (4) 佐 藤 信 行 韓国の家族と社会組織
- ㊦ (5) 末 成 道 夫 韓国兩班村落の研究
- ※ (6) 嶋 陸奥彦 韓国農村における親族組織と経済構造
- ※ (7) 崔 吉 城 韓国の宗教集団の分析

Ⅳ 東アジア政治・法律—中国の法と政治—

班主任 関

- (1) 衛 藤 藩 吉 中国の統治機構の変遷
- (2) 坂 野 正 高 清末の政策決定機構と代交実務家—特に馬建忠について
- (3) 平 野 健一郎 清末民初の東三省統治政策
- (4) 滋 賀 秀 三 伝統中国における裁判の準則としての法
- ※ (5) 藤 井 昇 三 ワシントン体制下における中国の平和
- (6) 関 寛 治 中国と連関する国際構造の変動
- (7) 森 山 茂 徳 日本の朝鮮植民地化過程とそれをめぐる国際関係

Ⅴ 東アジア歴史—東アジアにおける変革とその歴史的基盤— 班主任 佐伯

(1) 律令制の比較史的研究

- (1) 西 嶋 定 生 東アジア世界の形成
- (2) 窪 添 慶 文 北朝の国家構造
- (3) 池 田 温 中国律令制の展開
- ※ (4) 岡 野 誠 唐律の特質と機能
- (5) 武 田 幸 男 朝鮮の律令制
- ㊦ (6) 青 木 和 夫 日本律令国家の性格
- ※ (7) 平 野 邦 雄 日本古代社会組織の形成
- ※ (8) 堀 敬 一 唐宋の変革と東アジア

(2) 中国近代の変革と諸前提

- ※ (1) 柳 田 節 子 宋代における労働力の特質
- (2) 佐 伯 有 一 明清期の権力構造
- (3) 小 島 晋 治 近代における農民運動の特質
- (4) 田 中 正 俊 世界史における中国産業構造の特質
- (5) 小 杉 修 二 国民党政権とその基礎構造
- (6) 古 島 和 雄 現代中国における民衆運動と統一戦線
- ※ (7) 古 厩 忠 夫 1930年代の農業問題

※ (8) 菅 沼 正 人 中国の社会主義建設の提起する諸問題

VI 東アジア美術史・考古学——中国絵画に関する実証研究—— 班主任 鈴木

(1) 鈴 木 敬 米国所在中国絵画の山水表現

(2) 戸 田 禎 佑 米国所在中国絵画の人物表現

(3) 嶋 田 英 誠 米国所在中国絵画の花鳥表現

※ (4) 川 上 涇 宋元仏画のイコノグラフィー

※ (5) 海老根 聡 郎 禅宗系絵画に関する諸問題

※ (6) 小 林 忠 古渡り中国絵画の日本絵画におよぼす影響

VII 東アジア哲学・宗教 中国の思想と宗教 班主任 鎌田

※ (1) 劉 文 猷 礼経の言語と思想

(2) 蜂 屋 邦 夫 南北朝における神滅論争

㊦ (3) 福 井 文 雅 六朝道教と外来文化

※ (4) 江 島 恵 教 空観の中国的変異

※ (5) 塩 入 良 道 中国仏教における懺法の成立

※ (6) 泰 本 融 唐代における仏教理学の研究と唯識思想

(7) 鎌 田 茂 雄 唐代における仏教と道教

※ (8) 蔡 沢 洙 新羅における中国仏教の受容形態

VIII 東アジア文学 班主任 尾上

(1) 明清思想研究

※ (1) 溝 口 雄 三 明末に見られる思想の屈折と転換

(2) 岡 本 サ エ 西学輸入の思想的基盤

(2) 戯曲小説研究

※ (1) 青 山 宏 『西廂記』と詞の語彙比較

(2) 尾 上 兼 英 『西廂記』と明代小説

- (3) 田 仲 一 成 『西廂記』 諸注校補
 ○ (4) 伝 田 章 『西廂記』 諸版本の比較
 ○ (5) 平 山 久 雄 『西廂記』 における曲韻の研究

(3) 1930年代文学の研究

- (1) 丸 山 昇 三十年代 “左翼作家連盟” の研究
 (2) 尾 上 兼 英 三十年代 “文学研究会” 系作家の研究
 ※ (3) 伊 藤 虎 丸 三十年代 “創造社” 系作家の研究
 ㊦ (4) 芦 田 肇 三十年代の左翼文芸理論の研究

IX 東北アジア——西周時代史の総合的研究——

班主任 松丸

- (1) 松 丸 道 雄 西周金文に見える王と諸侯の関係
 (2) 持 井 康 孝 西周金文の基礎的編年
 ※ (3) 宇都木 章 西周時代の政治
 ※ (4) 小 倉 芳 彦 西周時代における秩序理念
 ※ (5) 後 藤 均 平 西周時代における都邑

X 東南アジア経済・社会

班主任 松井

- (1) 関 寛 治 現代東南アジア国際関係論
 (2) 松 井 透 東南アジア社会とインド移民
 (3) 山 田 三 郎 東南アジア農業の比較研究
 (4) 原 洋之介 東南アジアの経済発展と技術移転
 (5) 白 石 隆 東南アジアの政治発展と華僑
 ○ (6) 高 橋 彰 経済発展における非経済的要因
 ㊦ (7) 池 端 雪 浦 日本占領期のフィリピンの政治と文化
 ○ (8) 永 積 昭 インドネシアの独立運動

XI 南アジア政治・経済——インドにおける支配体制と社会構造—— 班主任 山崎

- (1) 山崎利男 古代インド社会の変貌
- (2) 荒松雄 インド史における民族・宗教と国家
- (3) 辛島昇 南インドにおける国家と社会
- (4) 松井透 イギリス植民地支配とインド社会
- (5) 山崎利男 英領インドにおける司法制度
- (6) 長崎暢子 イギリス支配下の民族形成と政治権力
- ※ (7) 中村平次 現代インド政治における分化と統合

——政党政治の消長をめぐって——

XII 西アジア歴史・文化

班主任 深井

- (1) 松谷敏雄 北メソポタミアにおける農耕文化の起源
- ※ (2) 黒田和彦 ハンムラビ時代の社会と文化
- (3) 深井晋司 ササン朝美術の特質とその発展
- ※ (4) 佐藤次高 西アジアの中世イスラム社会
- (5) 中村廣治郎 イスラムの社会思想
- ※ (6) 杉山二郎 ササン王朝時代の摩崖浮彫

共同研究

A 第三世界のなかのアジア——平和学構築の諸条件——

班主任 関

- ※ (1) 高畠通敏 第三世界における民衆運動
- (2) 石田雄 第三世界と比較政治文化
- ※ (3) 西川潤 第三世界の政治・経済・社会構造の変動
- (4) 坂本義和 第三世界と世界秩序
- ※ (5) 長井信一 東南アジア国際関係におけるマレーシアの国民形成
- ※ (6) 森利一 核拡散の論理と現実——第三世界のケース——

- ※ (7) 大 西 昭 第三世界を含む平和国際経済秩序の可能性
- ※ (8) 白 鳥 令 第三世界と国内政治
- (9) 関 寛 治 第三世界の平和理論構策の諸条件
- (10) 森 山 茂 徳 朝鮮半島における平和の条件

B アジアの農村

班主任 大野

- (1) 大 野 盛 雄 アジア農村研究の視角と方法
- (2) 松 井 透 インドの農村
- (3) 田 中 紀 彦 西アジアの農村と都市
- (4) 後 藤 晃 イランの農村
- (5) 高 橋 彰 東南アジアの農村
- ※ (6) 大岩川 和 正 イスラエルの農村
- ※ (7) 友 杉 孝 タイの農村
- ⊕ (8) 菱 口 善 美 インド・パングラデシュの農村
- ※ (9) 江波戸 昭 アジアの農村の地理学的研究
- ※ (10) 青 木 保 タイの宗教構造 — 都市と農村における —
- ※ (11) 佐 藤 次 高 エジプトの農村

C 東アジアにおける植民地支配と解放運動

班主任 佐伯

- (1) 佐 伯 有 一 ブロック経済の史的性格
- (2) 森 山 茂 徳 朝鮮総督府官僚の行動様式
- ※ (3) 梶 村 秀 樹 同化と分断
- (4) 田 中 慎 一 朝鮮土地調査事業史研究
- ※ (5) 姜 徳 相 三一運動論
- ※ (6) 安 宇 植 呂運亨の研究
- ※ (7) 戴 国 輝 台湾における土地調査事業
- ※ (8) 小 島 麗 逸 満洲における労働力問題

※ (9) 加藤 祐三 植民政策の系譜

D 明代史の総合研究

班主任 佐伯

- (1) 佐伯 有一 明末清初の社会構造
- ※ (2) 小山 正明 明代国家権力と村落支配
- (3) 尾上 兼英 章回小説の庶民性
- (4) 田仲 一成 明代演劇の研究
- ※ (5) 溝口 雄三 明清思想における中国的展開
- (6) 岡本 サエ 「清代禁書」の研究
- (7) 鈴木 敬 呉派文人画の成立について
- (8) 戸田 禎佑 呉彬の人物画風の成立について
- (9) 嶋田 英誠 浙派「狂態邪学」様式の成立について
- (10) 鎌田 茂雄 明代の仏教

E 中国古代礼制の研究

班主任 蜂屋

- (1) 尾上 兼英
- (2) 田仲 一成
- (3) 蜂屋 邦夫
- (4) 和泉 新
- (5) 前野 直彬 } 唐賈公彦等「儀礼疏」注解・校補
- (6) 竹田 晃
- (7) 戸山 芳郎
- (8) 今岡 凱夫
- ※ (9) 佐藤 保
- (10) 岡本 サエ

F インド史における宗教と社会

班主任 荒

- (1) 荒 松 雄 インド史におけるイスラ神秘主義の展開
- ㊦ (2) 鈴木 斌 インドにおけるスーフィー廟の機能と役割
- (3) 山崎 利 男 ヒンドゥー法と宗教
- ※ (4) 田中 敏 雄 ヒンディー文学と宗教
- ※ (5) 月輪 時 房 インドにおける宗教建造物の構造

附属I 西アジア農村の実証的（人文地理学的）研究

班主任 大野

- (1) 大野 盛 雄 村落構造の研究
- (2) 田中 紀 彦 西アジアにおける農業の地域構造の研究
- (3) 後藤 晃 西アジア農村の農業経済学的研究
- (4) 加納 康 彦 西アジアにおける家畜の生態に関する研究

